

# WORLD YOU

2009年度版

## 朋友

第25号

### 同窓会創立 50 周年特集号

高等学校 70 周年、PTA80 周年、後援会 30 周年



・神田錦町校舎(S14-S40)  
(写真の正面玄関は現在も健在)



・小石川校舎(S40~H4)

## 東京電機大学中学校 東京電機大学高等学校

・現在の小金井校舎

# 東京電機大学中学・高等学校同窓会



## 目 次

「巻頭言」 受け継がれる教育理念「技術は人なり」 学校法人東京電機大学理事長 加藤康太郎	1
会員の皆さんに参加頂ける同窓会へ 東京電機大学中学・高等学校同窓会会長 石崎 泰司	2
「教育には時を超えた理念が」 東京電機大学中学・高等学校校長 向芝 京太	3
「参加するのが楽しい」PTA活動に PTA会長 池田 法雄	4
後援会会員の皆様への感謝とご協力をお願い 後援会会長 宇多 勇	4
「合同創立記念事業報告」	5
・記念講演「アルビニスト 野口 健氏」 於 八王子市民会館	
・同窓会総会 於 小金井キャンパス カフェテリア	
・記念式典 於 小金井キャンパス 小ホール	
・記念祝賀会 於 小金井キャンパス アリーナ	
社団法人東京電機大学校友会創立100周年記念事業報告 校友会常務理事・事務局長 稲毛 通男	9
<b>「特 集」</b>	
「第20回 IDCロボットコンテスト大学国際交流大会」 東京電機大学 学長 古田 勝久 東京電機大学 未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 釜 道 紀 浩	10
平成20・21年度同窓会活動報告	15
学園だより	18
クラブだより	20
東京千住キャンパスの紹介	21
学園・時事と同窓会の歩み	22
学校・学科・年次別卒業生一覧	26
学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧	30
東京電機大学中学・高等学校同窓会会則	39

編集後記

## 第51回 東京電機大学中学・高等学校同窓会総会・懇親会のご案内

- ・日時：平成22年5月15日（土） 午後3時～
- ・会場：神田キャンパス「丹羽ホール」（懇親会：「カシオホール」午後5時～）

※平成24年4月、神田キャンパスが足立区北千住へ移転することから、神田キャンパスでの総会開催は最後になる予定です。特に神田校舎で学んだ会員の皆様、ぜひこの機会にご出席いただき、学生時代の思い出を新たにするとともに、神田キャンパスの姿を心にとどめていただきたいと思います。

巻頭言（記念式典挨拶より）

## 受け継がれる教育理念「技術は人なり」

学校法人 東京電機大学  
理事長 加藤 康太郎

学園理事長を務めております加藤でございます。

本日、ここに東京電機大学高等学校 創立70周年を迎えることができましたこと、誠に喜ばしく思っている次第でございます。

この記念すべき70周年式典の挙行に際しまして、学園を代表して一言挨拶を述べさせていただきます。

ただいま申し上げましたとおり、我が東京電機大学高等学校は本年で創立70周年を迎えましたが、重要なパートナーである校友組織、中学・高等学校同窓会が創立50周年、またPTAが発足して60年、さらには後援会が30周年を迎えられましたこと、大変喜ばしく、併せてお喜び申し上げます。

東京電機大学高等学校は、昭和14年設立の東京電機工業学校を前身とし、昭和23年に新製の電機学園高等学校が設置され、昭和31年に現在の東京電機大学高等学校へと校名変更し今日に至っております。この間、約3万2千人以上の卒業生を送り出し、多くの優秀な諸先輩方が、様々な分野において活躍されております。

キャンパス所在地については、昭和40年に神田から小石川キャンパスへ、平成4年には小石川から現在の小金井キャンパスへ、二度に亘りキャンパスの充実を図るとともに、近年では、平成8年に中学校を併設し、平成11年には男女共学化を実施するなど時代の趨勢にあった発展を着実に遂げております。

このような高等学校の今日の発展も、大学初代学長の丹羽保次郎先生が「よき技術者は人間としても立派でなければならない」と提言された「技術は人なり」という名言が教育理念として受け継がれている結果であり、この理念は、本校の校訓「人間らしく生きる」のなかに息づいております。

東京電機大学高等学校が大きな節目である70周年を迎えられたことは、本校を卒業した先輩方、また中学・高等学校同窓会長等の役員を務めていただきました歴代の先輩

方、PTAの方々、後援会の方々と多くの方々に尽力いただいた賜物であり、さらには本日まで来臨いただいております小金井市長の稲葉孝彦様をはじめ、地域の方々の多大なるご支援・ご協力の賜物と、本学園として深く感謝申し上げます。



皆様、すでにご承知のとおり、東京電機大学は平成24年4月の開設を目指し、足立区北千住の地に新たなキャンパスを創設することを決定いたしました。本学園の発祥の地である神田から新天地へと教育・研究の拠点を移すこととなりますが、かつて東京電機大学高等学校が神田から小石川、そして小金井とキャンパス移転の度に発展を遂げたことを手本とし、次の百年へ飛躍するキャンパスとなることをお約束するものであります。

皆様方におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りたく、あらためて心よりお願いする次第でございます。

特にご厚志をいただきました皆様には、この場をお借りし、心より御礼を申し上げますとともに、東京電機大学高等学校、そして東京電機大学中学校、本学園のこれからの発展を、今後とも温かく見守りくださるようお願い申し上げます。

私をはじめ、本学園教職員一丸となり、皆様方のご期待に応えるべく、今後も一層尽力してまいります所存でございます。

最後になりましたが、本日まで来臨の皆様方のご健康と、東京電機大学高等学校の益々の発展を祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

同窓会創立 50 周年記念特集号発刊にあたって

# 会員の皆さんに参加頂ける同窓会へ

東京電機大学中学・高等学校同窓会 会長 石崎 泰司



同窓会会員の皆様、そして東京電機大学中学・高等学校教職員の皆様には、日頃から大変ご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年は、先輩たちが永々と築き上げてきました同窓会が、設立 50 周年（平成

22 年 4 月 17 日で満 50 年となります）を迎えることになりました。高等学校創立 70 周年、PTA 発足 60 周年、後援会発足 30 周年の年にも当り、同窓会から各部門に声をかけ、記念事業委員会を立ち上げ準備を進めて参りました。

6 月 6 日小金井キャンパスにて大勢の会員の皆様にお集まりいただき、第 50 回同窓会総会を開催。その後 記念式典・記念祝賀会を開催いたしました。

早いもので、私が同窓会会長をお引き受けしてから早 5 年が経ちました。この間、自分なりに会長としての役目の重さに耐え、更に同窓会の発展と一緒に行動して下さる幹事の選任が最も重要と考え、鋭意努力してきた結果、『活動できる幹事の増強』の擁立が何とか図られるようになりました。多くの幹事の皆様に出席頂き、併せて女性幹事の出席も多くなり、活発な意見交換が行われ充実した幹事会が開催されております。

次に『各委員会の活発な活動』に重点を置いて、各委員長のもと委員会活動が活発に開催されるようになってまいりました。

① 朋友・しおり委員会では、朋友の編集に『会員の皆様が喜んで頂ける記事を！！』と活発な意見交換が行われ、特に今年は 50 周年記念特集号として冊子形式とし、内容を大幅に変更して、委員一同記念号の編集に取り組んでおります。

更に校友会の『しおり』委員会や『校友会

100 年史』そして『工学情報 100 周年記念誌』へも積極的に参画し、委員の皆様のご努力により、大きな成果を上げており、他の同窓会の見本となって頑張っております。

② クラス会促進委員会では、クラス会を開いて頂くには、卒業時のクラス委員の擁立が重要と位置付け、地道に調査を重ね『同窓会発展は、クラス会開催から！』とクラス会が開催出来るよう名簿作成の活動をしてまいりました。併せてクラス会開催の幹事役の方にクラス委員になって頂く等をお願いし、クラス会開催を働きかけて参りました。

③ 業務 IT 化委員会は、個人情報保護法施行に伴い、会員相互の連絡が取れ難い中、新たな情報交換の場となる、ホームページのメンテナンスにきめ細かく対応をし、皆様との交流の場作りを積極的に行っております。また、人事新報社の同窓名鑑への注意喚起を行う等、情報をいち早く提供し、会員の皆様のお役にたつ地に付いた活動しております。

各委員会の活動だけでなく、クラス委員の皆様はじめ今年からは、特に教職員の皆様にも行事への積極的参加をお願いし、参与・幹事・監査の方々にも幹事会をはじめ各催し物に参加頂き、活発な意見交換が行われております。

これも『皆の力で同窓会を盛り立てて行こう』と幹事一同が『同窓会とは同窓生のための組織である』と言う原点を忘れず、行動して頂いている賜物と感謝しております。

今年も『会員の皆さんに参加頂ける同窓会！』をスローガンに会員相互の交流に重点を置き、『同窓生で良かった！』と思われる同窓会作り、教職員の皆様・参与・幹事そして監査の皆様と一緒に頑張っていきたいと思っております。それには、会員の皆様が積極的にクラス会を開催し、併せて皆様の意見反映の場である総会にご出席頂くことが、最も重要と思っております。

是非、総会に参加頂き、意見をお聞かせ下さい。そして『会員皆様の同窓会！』を共に作って行こうではありませんか。



同窓会発足 50 周年記念特集号に寄せて

## 「教育には時を超えた理念が」

東京電機大学中学・高等学校校長 向 芝 京 太

「朋友」同窓会発足 50 周年記念特集号の発刊に際しまして、同窓生の皆様にご挨拶申し上げます。

平成 21 年は、同窓会の発足 50 周年であると同時に、高等学校は創立 70 周年、PTA60 周年、後援会 30 周年の年でもありました。これを記念して、去る平成 21 年 6 月 6 日に記念式典ならび祝賀会を開催できましたことは、中学校・高等学校として最大の喜びとするところです。

ここに改めて、ご支援ご協力いただきました石崎泰司同窓会長はじめ役員の方々、同窓生の皆様にお礼申し上げます。

ところで、ここ数年教育を取り巻く環境は大きく変化を遂げています。平成 18 年 12 月には約 60 年ぶりに教育基本法が改正されました。平成 19 年にはいわゆる教育三法、地方教育行政法、学校教育法、教員免許法が改正され、改正教員免許法による教員免許の更新制は本年度より実施され、教員は法令上も生涯に亘る資質向上を求められるようになりました。政権交代により教員免許更新制の先行きは不透明ですが、教員の資質向上は時代の要請です。

また、学習指導要領が改訂され、中学校は平成 24 年度から、高等学校は平成 25 年度から全面実施されます。今回の改訂は、いわゆる「ゆとり教育」からの方針転換であり、教育の充実・向上が緊急の課題となっています。

中学・高等学校では、大学初代学長の丹羽保次郎先生の「よき技術者は人間としても立派でなければならない」という提言を受け、中学生・高校生は人間であることの本質を学ぶ時期

であると考えて、校訓を「人間らしく生きる」としています。

人間は誰でも、かけがえのない自分の人生を、自分の力で歩いていかなければなりません。しかし、人間はその力を生まれながらに持っている訳ではありません。人間は必要な時期に、適切な指導や助言を受けることによって、その力を身に付けることができます。

現在中学・高等学校では、生徒一人一人が、自己について知り、確かな知識を身につけ、将来についてのしっかりした考えを持ち、自らの人生に力強い一歩を踏み出せるよう、日々の教育を行っています。

70 年の歴史が教えることは、教育には時代を超えた理念があるということです。しかしまた、教育は時代の急激な変化にも対応しなければなりません。

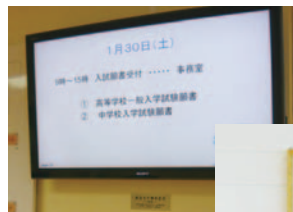
諸先輩が今日まで築かれてきた 70 年の伝統を受け継ぎ、しかも時代の変化にも対応して常に時代と社会の要求に応じていくことは、決して簡単なことではありませんが、伝統を受け継ぐものとして、教職員一丸となって最大限の努力を続けて行きたいと考えています。

今後とも同窓生の皆様のますますのご理解ご協力をお願いしてご挨拶とさせていただきます。



### 御 礼

高等学校創立 70 周年にあたり、同窓会、PTA、後援会より記念品として「大型ディスプレイ」と「校歌額」が寄贈されました。学校を代表してここに厚く御礼申し上げます。（写真は、エントランスホールに設置された大型ディスプレイと、体育館に掲げられた校歌額）



大型ディスプレイ

校歌額



## 「参加するのが楽しい」PTA 活動に

PTA 会長 池田 法雄



平成 21 年度東京電機大学中学・高等学校 PTA 会長の池田です。今年で PTA 会長 3 年目になります。

さて、平成 21 年度は、東京電機大学高等学校が、70 周年・PTA60 周年・同窓会

50 周年・後援会 30 周年の記念の年であり、その年に PTA 会長をさせていただき、とても、光栄に思っています。特に、今年最大のイベントが「高等学校創立 70 周年記念

式典・祝賀会」であり、皆様のお力添えや参加・ご協力により無事終了することができました。本当にありがとうございました。

そして、私たちの PTA 活動は、皆様が、「東京電機大学中学・高等学校 PTA の活動・行事に参加するのが楽しい」と笑顔で言っただけの活動ができれば大成功ではないかと思っています。

最後に、PTA 会長の私と優秀な役員・各委員が先生方や皆様と連携をもち、ご指導・ご協力をいただいて一生懸命活動していきたいと思っておりますので、暖かく見守ってください。

以上、宜しくお願いします。

## 後援会会員の皆様への感謝とご協力のお願い

後援会 会長 宇多 勇



東京電機大学中学・高等学校は、ますます内容を充実し、男女共学・中高一貫教育も定着し、その成果も年々素晴らしいものとなっているように思われます。大変喜ばしいことでもあります。

後援会も設立 30 周年を迎え、平成 21 年 6 月 6 日、中学・高等学校、PTA、同窓会と共同で記念式典と祝賀会を開催することが出来ました。

式典は、学園理事長加藤康太郎様、校友会理事長石塚昌昭様、小金井市長稲葉孝彦様をはじめとした、多くのご来賓の方々をお迎えして盛大に行われましたが、当後援会に対しても向芝京太校長先生から感謝状を戴き、30 周年の歴史を迎えられたのも、日頃会員の皆様のご協力のお陰と感謝しております。

昨今では学校の発展、変化に伴い生徒達のクラブ活動は年々多様化し、活動も活発化し

ております。

そこで後援会では、今後も多くの会員皆様の参加を戴くために、この紙面をお借りして趣旨と内容を説明させて頂きます。

援会後の趣旨は、学校の校地面積が少なく、生徒たちの成長に必要なクラブ活動が十分にできなく、郊外での活動を強いられております。その為、経済的な面から支援することを目的に設立され、PTA・同窓会・OBの方々から有志の支援を募り、1979年に発足した団体です。

主な支援内容は、郊外練習に行く為の交通費・大会参加費・備品等の支援で、特に、交通費においては、キャンパス内では十分に活動が出来ない為、校外のグラウンドへ移動しなければならず、生徒たちに大きな負担を掛けております。

こうした生徒の負担軽減を目的に設立された後援会ではございますが、昨今の経済不況で年々会員が減少し、肝心の財源の減少も併せて困っております。

どうか、この状況をご理解頂き会員になって戴きたく、重ね重ねお願いいたします。

## 合同創立記念事業報告

(高校 70 年、PTA 60 年、同窓会 50 年、後援会 30 年)

# 大好評だったアルピニスト 「野口 健氏」の記念講演

### <概要>

平成 21 年 6 月 6 日 [ 土 ]、高等学校創立 70 周年、中学・高等学校同窓会創立 50 周年、PTA 創立 60 周年、後援会創立 30 周年の記念式典・祝賀会・講演会、そして同窓会の総会が行われた。

高等学校の前身である東京電機工業学校が昭和 14(1939)年 4 月に開設され、平成 21 年は高等学校創立 70 年の記念祝年にあたり、高等学校並びに、同窓会、PTA、後援会の各団体が協賛し、記念事業として開催されたものである。

当日は、校外の八王子市民会館に於いて、

記念講演会 [ 9:30 ~ 11:00 ] が、アルピニストの「野口 健氏」を講師に招き、在校生徒、ご父兄の皆さんを対象に開催された。

また、小金井キャンパス校内に於いて、中学・高等学校同窓会総会 [ 11:30 ~ 12:30 ] が多数の会員出席のもと開催され、その後、記念式典 [ 13:30 ~ 14:20 ] が、学園、校友会等から多数の来賓を招き盛大に開催された。

記念行事の締め括りとして、記念祝賀会 [ 14:30 ~ 16:30 ] が恒例の学校主催・卒業生招待会を兼ね盛大に行われ、滞りなく記念行事は終了した。

## === 記 念 講 演 会 ===

校外の八王子市民会館を会場に、在校生、ご父兄、および教職員の皆さん、約 1,800 名が集まり開催された。

古城生活指導部長から開会の辞があり、向芝学校長より高等学校創立 70 周年記念の

挨拶が行われた。

講演会は、事前に講師であるアルピニスト・野口健氏の活動を紹介したビデオ上映から始まり、講師の紹介後『富士山から日本を変える』と題して講演が行われた。



野口氏の話真剣に聞く生徒たち



熱心に講演する野口氏

豊かな登山経験と多方面で活躍する野口氏の興味深い話に皆さん聴き入っていた。最後に大久保(靖)教頭より、講師へ謝辞があり、記



念講演は終了し、在校生とご父兄の皆さんは現地解散となった。

### ＜講演要旨＞

アルピニスト・野口健氏の講演は、ヒマラヤに挑戦するDVDからスタートした。

かっこいい！しかし話のはじめは自身の失敗談である。勉強をせず落第生であったこと、喧嘩をして相手にけがをさせてしまったこと、停学になり世界を巡る旅に出たこと。どれも生徒のすぐ隣で起きているような語り口で引き込んでゆく。

山を歩き始めた当初、マッキンリーで消息を絶った植村直己氏に傾倒し、一人でクレバス帯を歩くとき「竹ざお」を利用して、落ちる恐怖から逃れた。五大陸の最高峰を踏破した野口氏ではあるが、8000 m級の山々は異次元の世界であるという。

「感情が乾く。山頂に立てるかどうか…、自然と人間のギリギリの戦いの前で友人が耐えられず空へ飛んだ。乾いた感情に悲しみは湧いてこない。何も考えないことが無事に下山する唯一の方法だから。屍の上を超えて歩くこともあった。怖くて頂上を征服した感激など無い。」

野口氏の言葉は死と隣り合わせの世界を経験した人のみが有する荘厳(そうごん)さがあった。そこには「生きている、それだけで素晴らしいことなんだ」というメッセージが感じられ、軽妙な話術で話は進んでゆく。生徒諸君はキラリと光った話題に気づいた

だろうか。

「成功ってなんだろう？山頂に立てば成功、途中で引き返したら失敗なのか。登頂に失敗し日本に帰国するとマスコミの非難が集中する。しかし自分はいつも、それは違うと感じていた。自分は生きて帰ってきた。これは未来につながるじゃないか。山頂に立っても下山の時遭難し、帰らぬ人となることがある。これは成功か？回りの多くの人々が自分の失敗を攻めたときこう考えた。人生の最後に51%の成功をつかんでいればいいんだ。49%は失敗できる。そう考えられたとき本当に楽になり、未来に気持ちをつなげることができた。そして苦しいときは自分を自分で、声を出して褒めることが大事だ。」とも。

毎年3000名がヒマラヤを目指す昨今、野口氏の域に達せられるアルピニストが幾人いるか興味深い。創立70周年記念講演にふさわしい未来につながる講演会であった。この場を借り、改めて野口健氏にお礼申し上げます。

### 【野口 講師のプロフィール】

- \* 1973年：アメリカ・ボストン生まれ。
- \* 1989年：16歳で、モンブランへの登頂を果たす。
- \* 1993年：マッキンリー登頂を達成。
- \* 1999年：念願のエベレスト登頂(北側)に成功。
- \* 2001年：シェルパ基金を設立。
- \* 2007年：エベレスト(中国側から)登頂成功。
- \* 現在：清掃活動に加え、地球温暖化による氷河融解防止に取り組む。

## === 同 窓 会 ・ 総 会 ===

周年記念事業の開催に合わせ、第50回、中学・高等学校同窓会総会が学校内のカフェテリア(食堂)会場に於いて開催された。

加藤学園理事長はじめ校友会、各同窓会長他、多数ご来賓の出席を頂き、総勢約150名で盛大に開催された。

総会は野口副会長の司会進行で、石崎同窓会会長挨拶から始まり、向芝学校長(同窓会名

誉会長)挨拶、各来賓紹介と来賓代表として加藤学園理事長の挨拶が行われた。

続いて総会議案事項に移り、平成20年度決算及び事業報告と平成21年度予算及び事業計画の説明が行われた。議案の最後は平成21・22年度の幹事と会計監査選出が行われ、各議案事項共に出席者満場一致で承認され総会終了となった。



祝辞を述べる加藤学園理事長





総会受付風景



開会の挨拶をする石崎同窓会会長



左から来賓の加藤学園理事長、小林大学同窓会会長、飯島商工懇話会会長、荒井電機学校同窓会会長



総会会場となった小金井キャンパス・カフェテリア

### === 記念式典 ===

学校内の小ホールと他（遠隔教室）会場に於いて、稲葉小金井市長をはじめ多数の来賓と招待者が出席され、総勢約 350 名で厳粛かつ盛大に行われた。

式典は野口記念事業委員長の開会の辞に始まり、大学グリークラブOB・11名と出席者による校歌斉唱、向芝学校長からの式辞・学事報告が行われ、加藤学園理事長挨拶、来賓の稲葉小金井市長と石塚校友会理事長から祝辞があり閉式の辞となった。



向芝学校長



加藤学園理事長



式典会場となった小ホール



石塚校友会理事長



稲葉小金井市長

## === 記念祝賀会 ===



式辞を述べる向芝学校長



学校への支援活動で感謝状を受ける石崎同窓会会長



大勢の参列者でにぎわう祝賀会会場アリーナ

祝賀会は、式典出席者と卒業生招待会の出席者、約 500 名が学内アリーナ（体育館）会場に集まり開催された。

大久保（靖）教頭先生により開会され、向芝学校長の挨拶、学園の加藤理事長から挨拶があり、大学グリークラブOBと出席者全員での旧校歌合唱が行われ、古田大学学長の乾杯後、祝宴・歓談となった。

祝宴の半ばに、学校側からPTA、同窓会、並びに後援会の各団体に感謝状贈呈が行われた。

今回の記念事業の一環として、卒業生が製作した『高等学校の歴史ビデオ』が上映され、会場の祝賀ムードを盛り上げていた。

祝宴の中締めが宮本前学校長により行われ終宴となった。

### ※記念事業開催にあたり

記念事業委員会より

高等学校、同窓会、PTA、後援会の各団体は、平成 21 年が創立記念周年（但、同窓会は平成 22 年）にあたることから、平成 19 年 7 月、記念事業開催の為、各団体より委員を選出し記念事業委員会を発足させました。

平成 21 年 6 月の合同記念行事開催を目標に、事業委員総勢 15 名で足掛け 2 年間で費やし準備してまいりました。おかげさまで各方面からの絶大なるご援助ご協力を賜り、平成 21 年 6 月 6 日、盛大に記念行事を開催することが出来ました。この場を借り、ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。



## 社団法人 東京電機大学校友会

# 創立 100 周年記念式典・講演会・祝賀会報告

校友会常務理事・事務局長 稲毛 通 男



式辞を述べる石塚校友会理事長と来賓の皆様

電機学校同窓会を起源とする社団法人東京電機大学校友会は、平成 21 年 10 月 21 日に創立 100 周年を迎えることから、平成 21 年 10 月 17 日(土)、ホテル・グランドパレス(東京・九段)において、記念式典・講演会・祝賀会を 600 余名の参加者の下、盛大に挙行いたしました。

### 【式典】

加藤克己実行委員長の開式宣言に始まり、主催者である石塚校友会理事長より式辞があり、続いて、来賓の村田善則文部科学省高等教育局私学部私学行政課長ならびに加藤康太郎学園理事長のお二方より祝辞がありました。

その後、司会者から、古田勝久学長ならびに向芝京太中学・高等学校長の紹介があり、代表して古田勝久学長より祝辞がありました。

そして、小林幸宏大学同窓会長、石崎泰司中学・高等学校同窓会長、荒井征一電機学校同窓会長の紹介があり、三同窓会を代表し荒井征一電機学校同窓会長がご挨拶、最後に、加藤克己実行委員長から閉式宣言が行われ、記念式典はとどこおりなく終了しました。

### 【講演会】

東京電機大学を卒業され世界的に有名なマジシャン、前田知洋氏を講師にお招きし行われました。前半の講演では、前田さんの身振り・手振りと相手を引きつける話し方に皆さ

ん聴き入り、後半のテーブルマジックでは、前田さんの手捌きに驚きの連続でした。

### ＜前田知洋講師のプロフィール＞

昭和 63 年、本学工学部第一部電気通信工学科卒業。在学中はマジック・サークルに所属。米国アカデミー・オブ・マジカルアーツのオーディションに合格。ロサンゼルスマジックキャッスルに日本人最年少で出演。マジシャン・オブ・ザ・イヤー賞ほか多数受賞。著書「知的な距離感」、「人を動かす秘密のことは」のほか雑誌に連載をもつ。



目の前で鮮やかなマジックを披露する前田氏

### 【祝賀会】

午後 1 時より、同ホテルの「ダイヤモンド・ルーム」で盛大に開宴。石崎泰司校友会副理事長の開会宣言があり、石塚昌昭校友会理事長の挨拶、向芝京太中学・高等学校長の乾杯と続きました。

大学・尺八部 OB の琴と尺八の演奏、神田明神将門太鼓のアトラクションが会場の雰囲気をもたらし、参加者は 100 年の歴史ある校友会の歩みを語り、大いに盛り上がっていました。

最後は、加藤克己実行委員長からの謝辞と丸山孝一郎前学園理事長(校友会第 33 代理理事長)の万歳三唱で閉会となりました。

出席者は、会場出口で主催者より見送られ、記念品を受け取って散会となりました。

(創立 100 周年記念掲載記事専用写真は、写真家ムトー清次氏撮影によるものです。)



## 特集

「IDCロボットコンテスト大学国際交流大会 第20回記念大会」

# ロボットづくりに燃える大学生の熱い夏

東京電機大学 学長 古田 勝久

東京電機大学 未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科

釜道 紀浩



<古田学長>



IDC2009 参加メンバー（フェアウェルパーティーでの集合写真）

東京電機大学高等学校創立70周年、ならびに、中学・高等学校同窓会発足50周年、おめでとうございます。大学を代表してお祝い申し上げますと共に、中学校・高等学校と同窓会のご発展をお祈りしております。

さて、このたびは、同窓会記念誌への執筆の機会を頂き、ありがとうございました。大学の最近の取り組みとして、この夏に開催致しました行事についてご紹介させていただきます。

### 国際ロボコン開催

2009年8月6日～18日に、IDCロボットコンテスト大学国際交流大会（International Design Contest / 通称：IDCロボコン）が東京電機大学・IDC国際実行委員会主催で開催されました。IDCロボコンは、ロボット工学を学ぶ世界各国の大学生が参加するロボコン国際大会です。創造性豊かな国際的感覚を持ち合わせた学生の育成を目的として、1990年に東京工業大学とアメリカのマサチューセッツ工科大学（MIT）が協力し、

それぞれの大学から代表学生を選出して、第1回大会が東京で開催されました。その後、この取り組みに賛同する世界各国の大学が加わり、毎年夏に行われています。参加する各国の大学がホスト校となり、日本をはじめ、アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国、タイ、ブラジルなどで開催されてきました。東京電機大学は2006年より共催校として協力し、代表学生を派遣してきました。



開会式（チームメンバーが発表され、Tシャツを受け取る参加学生）

通常のロボコンでは、各チームが製作したロボットを持ち寄り、競技会を行います。本大会は各国学生による即席の混成チームを



マシン製作中（いろいろなアイデア・デザインが生まれます）

つくり、10日間でロボットの設計・製作を行い、競技会に挑みます。提示された競技テーマと提供されるキットをもとに、英語でコミュニケーションを取りながら、アイデアを出しあい、一致協力してロボットづくりに取り組む大会です。各国の大学生と切磋琢磨しながら共にロボットをつくり上げるなかで、学生の創造性と国際的感覚を養い、実践的な経験を積むための育成プログラムとして継続されており、世界各国のトップレベルの大学が毎年参加する国際的教育プログラムとなっています。

今年は20回目の節目の年であり、光栄にも東京電機大学で主催することとなりました。MIT（アメリカ）、サンパウロ大学（ブラジル）、ソウル大学（韓国）、清華大学（中国／初参加）、フランス選抜、タイ選抜、そして、日本からは東京工業大学と東京電機大学を含めた7ヶ国48名の学生を集め、東京神田キャンパスにて行われました。本学は2012年4月に足立区北千住駅前に東京千住キャンパスを創設することが決定しています。進出先の足立区からもこの大会の趣旨に賛同を頂きまして、移転に先駆けた協力事業として共催頂きました。

## 大会の様子

それでは、今大会の様子を紹介しましょう。

IDCロボコンは開会式でのチームメンバー発表からスタートします。開会式を迎えるま

で、参加する学生たちには、競技テーマもルールも公開されていません。初めて出会った外国の学生とチームを組み、約10日間でロボットの設計・製作にチャレンジします。限られた短期間で設計から製作までを行うためには、チームワークが重要となります。ときには意見の対立も起こりますが、積極的に話し合うことで、良いアイデアが生まれ、協力して作業を進めることで、短期間でのロボット製作も可能となります。IDCロボコンでは、ロボットのデザインに対する発想、製作技術はもちろん、コミュニケーション能力も重要な要素となります。日本人メンバーの中には、最初は英語での会話に戸惑い、なかなか自分の意見を伝えることができずに、もどかしさを感じる者も多いようです。しかし、積極的に話し、図を描いたりジェスチャーを加えたりと、伝えようと努力することで、少しずつメンバーとの会話にも慣れてきます。自分のアイデアを理解してもらい、良いアイデアだと認められたときは、喜びを感じる瞬間でも



マシン製作中（協力して作業を進めます）

あります。また、今年のIDCロボコンでは、参加学生全員が大学へ徒歩で通える場所にある同じホテルに宿泊しました。製作をしている時間以外のオフタイムも共有することになります。一緒に食事に行ったり、観光に出かけたりと、まさに寝食をともにすることで、一段と交流が深まり、ロボットの製作作業もスムーズに進行するようになります。

## 今年のテーマは「HANABI」

IDCロボコンでは毎年、開催地にちなんだテーマが設定されます。今年は、実行委員会を中心に、足立区の担当者とも協議を重ね、





競技フィールド（花火をテーマに、川と緑をイメージしたフィールド）

足立区のイメージや日本らしさという観点から「HANABI」とすることが決定し、競技フィールドも足立区の川と緑をイメージしたものとしました。競技フィールドは5m×4mの大きさで、「グランドエリア」と「エコゾーン」の2つのエリアから構成されます。グランドエリアは傾斜面となっており、「花火の種」と呼ばれる円筒や球状のオブジェクトが中央に置かれています。後方には夜空を模した壁があり、花火の円盤が設置されています。花火の円盤と、「花火の種」にはそれぞれ、部分的にマジックテープが貼られており、自陣の色の「花火の種」を拾い上げ、夜空の花火に数多く貼り付けることで、得点を得ることができます。また、手前側にあるエコゾーンには、ピンポン玉が敷き詰められており、そのピンポン球を手前側に落とし、基準線を越えて「ナイアガラ花火」を完成させると得点となり、グランドエリア上部にある「大玉花火」を開かせることができます。その「大玉花火」に「花火の種」



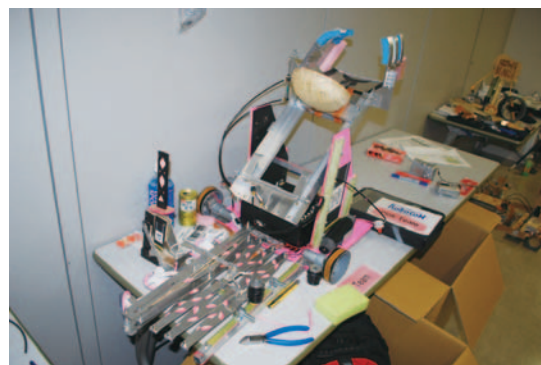
各チームに配布された材料

をつけるとさらに高得点が得られるルールとなっています。競技時間は90秒、2チームの対戦形式で行われ、合計得点の多いチームが勝者となります。

ロボット作製に使える材料も限られており、モータ、エアシリンダ、アルミ材、木材など全チーム共通の約40種類の部品・素材と、1000円分の自由に購入できる材料から作らなくてはなりません。

### 競技のポイント

まずエコゾーンのロボットです。ここでは、モータなどの電気で作動するアクチュエータを搭載できず、また、解体してリサイクルしやすいように接着剤などは用いずに、ネジ等で接合するルールとなっています。確実にピンポン玉を落とすには、正確に動作するロボット



ピンクチームの投てきロボット

を作り、細かな調整が必要となります。

グランドエリアのロボットも簡単ではありません。グランドエリアは最上部を除き、約10度の傾斜面となっており、また川を模した部分は潤滑剤が塗られているため、滑りやすくなっています。たった10度の傾斜であっても、ロボットの重心や、タイヤの接地などを工夫しなければ、スリップしたり、転倒したりと思い通りに操縦するのは難しくなります。

全チーム共通の部品、素材を用いてロボットの製作を行います。今年もそれぞれ独自のデザインで、工夫を凝らしたロボットが設計・製作されました。

エコゾーンはモータが使用できないため、巻きバネやゴムを用い、蓄えた力で車輪を駆動して、ピンポン玉を落としながら進んでい



くロボットが多く見られました。左右に分かれている陣地のどちらにも対応するため、左右対称なロボットが多い中、イエローチームは上下をひっくり返すことで両サイドのスタート位置に対応できるよう設計が工夫されていました。ピンクチームのロボットは、車体が進んでいくのではなく、吸盤によってポ



競技会の様子

ディーをスタート地点に固定し、マジックハンド状のアームが伸びて、ピンポン玉を落とす機構を有していました。

グランドエリアのロボットでは、大玉花火を狙うロボットに特徴的なものが多く見られました。まず、ピンクチームの投てきロボットです。このロボットは、フィールド上から球状の花火の種を拾い上げ、ゴムの張力を利用して放り投げるもので、調整中には、製作会場の天井にぶついたり、大玉花火を飛び越えたりと、十分得点できる投てき力を見せていました。

スカイブルーチームのロボットは、折り畳まれたリンクを伸ばして、大玉花火の最高点まで届くアームを搭載していました。移動する機能はないものの、スタート地点でもう一台のロボットが運んできた花火の種を受け取り、コンパクトにたたまれた3つのリンクを伸ばし、大玉花火の得点を狙うものです。

今年はロボットの台数制限がなかったため、エコゾーンロボット1台、グランドエリアロボット2台の計3台と、製作チームも多く競技会前日のぎりぎりまで製作・最終調整に取り組んでいました。

### 熱戦の最終競技会

今年の最終競技会は、足立区の協力により、北千住駅前にあるシアター1010にて行われ

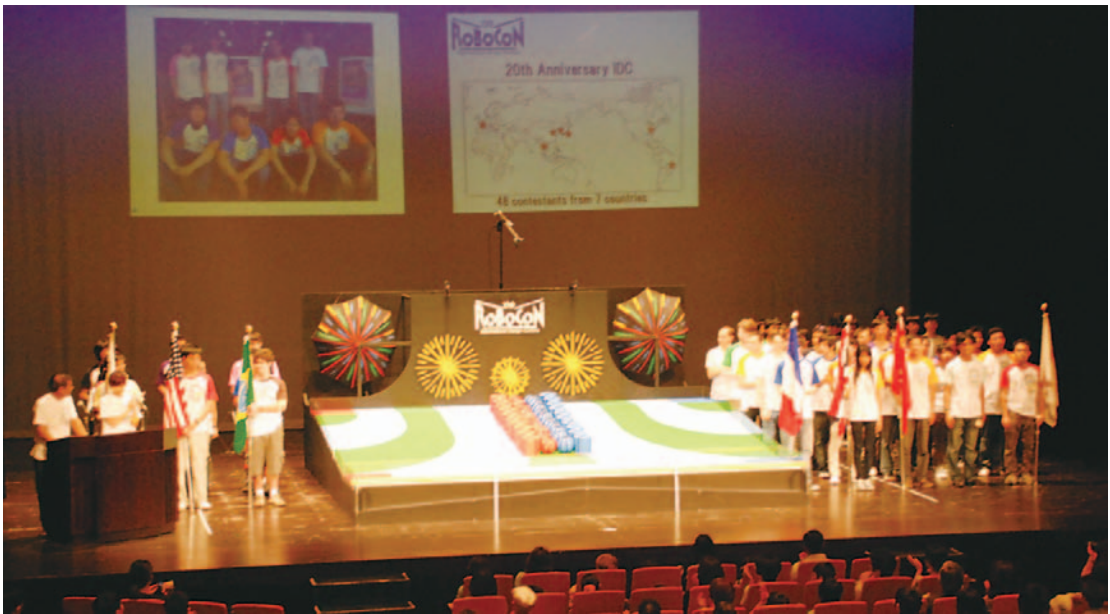
ました。

競技は全12チームを4つのリーグに分け、総当たりで試合を行い、各リーグ上位2チームが決勝トーナメントに進出する形で進められました。とくに決勝トーナメントでは、接戦で同点になる場合も多く、ナイアガラ花火のピンポン玉の高さでの判定や、それでも差がない場合のじゃんけんでの勝敗決定も見られました。最終的に決勝に進出したのは、オレンジチームとレッドチーム。予選リーグでも対戦していた2チームの戦いとなりました。試合を重ね、操作に慣れてきた両チームは、相手チームが付けた花火の種を落としたり、得点を防ぐためのディフェンスをするなど接近した攻防が行われました。ロボットを直接抑え込んだ反則行為かどうかで判定が割れ、協議の結果、再試合となりました。観客の子ども達からのさらに熱い声援がおくられる中、再試合が開始され、まずオレンジチームがナイアガラ花火を成功、レッドチームはおしくも失敗。その後、オレンジチームが得点を加え、そのままディフェンスし、試合終了。オレンジチームの優勝が決定しました。



優勝のオレンジチーム

IDCロボコンでは、競技会の優勝・準優勝以外に「デザイン大賞」を選定しています。これは、大会に参加している各国のインストラクタの評価により決定するもので、優れたアイデア、設計、製作技術など総合的に判定されるものです。荣誉あるデザイン大賞にはピンクチームが選ばれました。ピンクチームは優勝、準優勝チームと同じ予選リーグであったため、惜しくも予選敗退となってしまいましたが、マジックハンドのエコゾーンロボットと、投てき型のグラ



最終競技会（北千住駅前シアター 1010 で開催）

ンドエアロボットの2台ともに創造的なアイデアが盛り込まれていました。製作するロボットを2台に絞り込み、完成度の高いロボットに仕上げたことも受賞した要因です。今年、観客投票により「足立区長賞」も選定されました。予選リーグが全て終了した後に、観客が気に入ったチームに投票し、最も人気を集めたチームが選ばれるもので、この賞はブルーチームに贈られました。ブルーチームはロボットの装飾として、LEDの電飾を取り付け、勝負以外でも観客を楽しませ、ロボットの光り輝く装飾に子どもたちから圧倒的な支持を集めたようです。決勝リーグでは、レッドチームに同点の末、じゃんけん勝負に敗れて悔しい思いをしていただけに、観客からの支持を集められ喜んでいました。試合終了後のインタビューでは、勝ち負けによる嬉しさ、悔しさよりも、参加できたこと、貴重な体験ができたこと、そして、何よりも大切な仲間と出会い、一緒に取り組めたことへの感謝のことばが多く聞かれました。

### 「サイエンス塾」を実施

本大会では、大学生によるロボコンのほかに、小中学生など一般の方々へ、ものづくりの楽しさ、科学技術教育の重要性を広めるため、親子参加型の体験イベント「サ

イエンス塾」を実施するとともに、マシン作製期間中に3日間の一般公開を実施しました。最終競技会や事前のサテライトイベント、一般公開に大勢の方々にご参加頂きました。大会期間を通し、怪我や病気なども発生せず、無事に終了することができ、参加した学生にとって有意義な大会であったと思います。また、テレビ・新聞等でも多く取り上げられ、多くの方々に、この取り組みを認知して頂くよい機会となったと考えています。参加した学生については、今回の貴重な経験をもとに将来、世界で活躍する技術者・研究者に成長するものと期待しています。

今年の第20回記念大会を本学主催にて開催し、盛会裏のうちに幕を引くことができましたのも、ご協力頂きました皆様のご高配の賜物と考えております。ここに改めて深く感謝申し上げます。



サイエンス塾の様子  
(パスタ橋づくり)

※ IDC ロボコンの詳しい情報は公式 Web ページをご覧ください。

<http://www.idc-robocon.org>

# 平成 20・21 年度 同窓会活動報告

## 事業報告および事業計画

平成 20 年度 事業報告	平成 21 年度 事業計画
<p>【1】 総 会 於 神田キャンパス 丹羽ホール 平成 20 年 5 月 10 日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成 19 年度事業報告、決算報告、会計監査報告承認</li> <li>平成 20 年度事業計画案、予算案の審議および承認</li> <li>幹事の改選と新任幹事の承認</li> <li>役員改選の承認（会長、副会長、会計、会計監査）</li> <li>会則改訂の承認</li> <li>その他</li> </ol> <p>【2】 同窓会会誌『朋友』2008 年版の発行</p> <p>【3】 校友会の『しおり』発行への協力</p> <p>【4】 クラス会開催の促進</p> <p>【5】 業務 IT 化の促進「HP」の保守、更新</p> <p>【6】 三委員会の活発な活動</p> <p>【7】 校友会 100 周年記念への協力（記念誌発行への協力）</p> <p>【8】 工学情報 100 周年記念誌発行への協力</p> <p>【9】 同窓会幹事・同窓会参与・同窓会監査・教職員・クラス委員との懇談</p> <p>【10】 平成 20 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送、回収</p> <p>【11】 クラス委員名簿改訂</p> <p>【12】 同窓会幹事の発掘</p> <p>【13】 クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給</p> <p>【14】 OB・OG 会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給</p> <p>【15】 入学記念品として、キーホルダーを贈呈</p> <p>【16】 卒業記念品として証書挟みの贈呈</p> <p>【17】 新会員に同窓会活動について説明</p> <p>【18】 準会員活動の奨励『武蔵野祭、体育祭、クラブ活動、合唱祭』等</p> <p>【19】 同窓会設立 50 周年（平成 21 年）に向けての準備（学校、PTA、同窓会、後援会共同開催）</p>	<p>【1】 総 会 於 小金井キャンパス・カフェテリア 平成 21 年 6 月 6 日（土）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成 20 年度事業報告、決算報告、会計監査報告承認</li> <li>平成 21 年度事業計画案、予算案の審議および承認</li> <li>幹事の改選と新任幹事の承認</li> <li>役員改選の承認（会計、会計監査）</li> <li>その他</li> </ol> <p>【2】 同窓会会誌『朋友』2009 年版の発行</p> <p>【3】 校友会の『しおり』発行への協力</p> <p>【4】 クラス会開催の促進</p> <p>【5】 業務 IT 化の促進「HP」の保守、更新</p> <p>【6】 三委員会の活発な活動</p> <p>【7】 校友会 100 周年記念誌への協力（記念誌発行への協力）</p> <p>【8】 工学情報 100 周年記念誌発行への協力</p> <p>【9】 同窓会幹事・同窓会参与・同窓会監査・教職員・クラス委員との懇談</p> <p>【10】 平成 21 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送、回収</p> <p>【11】 クラス委員名簿改訂</p> <p>【12】 同窓会幹事の発掘</p> <p>【13】 クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給</p> <p>【14】 OB・OG 会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給</p> <p>【15】 入学記念品として、キーホルダーを贈呈</p> <p>【16】 卒業記念品として証書挟みの贈呈</p> <p>【17】 新会員に同窓会活動について説明</p> <p>【18】 準会員活動の奨励『武蔵野祭、体育祭、クラブ活動、合唱祭』等</p> <p>【19】 校外幹事・参与会開催（隔年）</p> <p>【20】 同窓会設立 50 周年（今年度）に向けての準備（学校、PTA、同窓会、後援会共同開催）</p>



# 平成 20 年度 決 算 報 告

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	1,860,000	事 業 費	1,321,740
内 訳		内 訳	
4,000 円× 331 名 (高校)	1,324,000	総 会 費	524,000
4,000 円× 134 名 (中学)	536,000	教職員・クラス委員懇談会費	200,000
		ク ラ ス 会 補 助 金	360,000
		ク ラ ブ O B ・ O G 会 補 助 金	100,000
		同 窓 会 誌 制 作 発 行 費	116,240
		ク ラ ス 会 促 進 委 員 会 事 業 費	21,500
		業 務 I T 委 員 会 事 業 費	0
補 助 金	500,000	会 議 費	512,160
雑 収 入	62,129	事 務 通 信 費	248,093
記 念 事 業 基 金	400,000	諸 費	33,040
		予 備 費	0
		記 念 事 業 基 金	400,000
小 計	2,822,129	小 計	2,515,033
前 期 繰 越 金	1,052,429	前 期 繰 越 金	1,359,525
収 入 合 計	3,874,558	支 出 合 計	3,874,558

## 平成 20 年度 財 産 目 録

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目		期首残高	期末残高
一般会計		1,052,429	1,359,525
内 訳	現金	183,735	184,942
	普通預金 (三菱東京 UFJ 神田支店)	868,694	1,174,583
記念事業基金		402,238	0
内 訳	郵便局ばるる (通常郵便貯金)	402,238	0
積立資産		2,040,611	2,050,111
内 訳	郵便局ばるる (通常郵便貯金)	501,754	505,200
	第 10 回 公 社 債 投 資 信 託 (自動継続投資口) 野村証券	1,538,867	1,544,911
合 計		3,495,278	3,409,636

## <平成 20 年度 会計監査報告>

左記決算について、会計監査の結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

平成 21 年 4 月 4 日

横 山 眞 一 (印)  
横 山 實 (印)

# 平成 21 年度 予 算

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科 目	金 額		科 目	金 額	
会 費	1,660,000		事 業 費	1,900,000	
内 訳	4,000 円× 289 名 (高校)	1,156,000	内 訳	総 会 費	400,000
	4,000 円× 126 名 (中学)	504,000		宿 泊 幹 事 会	200,000
補 助 金	500,000	2,000,000		教職員・クラス委員懇談会費	300,000
				ク ラ ス 会 補 助 金	500,000
				ク ラ ブ O B ・ O G 会 補 助 金	100,000
雑 収 入	50,000			同 窓 会 誌 制 作 発 行 費	300,000
記念事業基金 (校友会)	2,000,000	2,000,000		ク ラ ス 会 促 進 委 員 会 事 業 費	50,000
				業 務 I T 委 員 会 事 業 費	50,000
				会 議 費	500,000
				事 務 通 信 費	200,000
			予 備 費	169,525	
			記 念 事 業 基 金	800,000	
			記 念 事 業 費	2,000,000	
小 計	4,210,000		小 計	5,569,525	
前期繰越金	1,359,525		前期繰越金	0	
収入合計	5,569,525		支出合計	5,569,525	

## 平成 20・21 年度 役 員 名 簿

役 名	氏 名	卒 年	役 名	氏 名	卒 年	役 名	氏 名	卒 年
名誉会長	向石 芝	S48	参 与	大塚 忠	39	20・21 幹 事	舟橋 明	H-18
	副 会 長	見崎 泰		37	大印 宮		41	佐藤 瑠
会 庶 計 務	見崎 正	35	19・20 幹 事	小長谷 登	31		藤 葉 希	-19
	小串 室	41		阿久津 功	S23		平 木 希	S20
	野橋 隆	37		清 宇 水	23		清 見 水	35
	大野 博	48		宇野 敬	27		見 崎 正	35
	伊沼 博	43		北風 康	29		石 崎 泰	37
	伊奈 敬	48		藤 田 彦	36		串 橋 幸	37
	宇多 英	45		田中 秀	40		加 藤 克	40
	白岩 夫	41		小室 泰	41		村 登 志	40
	岩崎 夫	41		岩 崎 好	41		川 村 登	40
	矢部 雄	41		矢部 好	41		白 田 英	41
会 計 監 査 顧 問	横山 正	27	渡边 幸	39	白 田 久		43	
	武藤 二	34	津 多 田	45	大 染 清		46	
	宮崎 登		津 田 浩	45	野 口 隆		48	
	松岡 夫		金子 司	45	伊 奈 野		48	
	高久 毅		川 彦 由	45	伊 河 内		53	
参 与	宮本 治	23	吉村 仁	48	内 山 夫		54	
	鷺見 篤	23	古城 浩	50	内 渡 西		H-02	
	谷野 一	23	相原 浩	53	渡 西 和		-12	
	野矢 善	27	屋 内 藤	53	和 渡 林	-12		
	加藤 太	27	内 山 下	H-01	和 渡 林	-14		
	柴山 茂	29	西 尾 村	-03	和 渡 林	S41		
	松原 宏	34	木 村 峻	-09	和 渡 林	53		
萩原 芳	35	松野 壮	-13					

## 年間行事紹介

### 学園 だより

高校の学則定員は中学の定員増加にともなって漸減し現在は250名。また、中学からの内部進学者が増えてきているため、来年度入試（平成22年入試）の募集定員は105名となっています。このように中高一貫生が全校生徒の3分の2を占めるようになりましたが、一貫生と高校入学生はホームルームこそ別々ながら、学年としては一つにまとまって行動し、学校行事、生徒会活動や部活動なども一緒に活

動しています。

高校生の男女比は7対3であり、女子生徒の数がやや少ない感じがしますが、実際の学校生活では、学習面のみならずさまざまな行事や生徒会活動においてその存在感を十分にアピールしています。

さて、本校の学校行事の多くは、生徒たちにより自主的に運営されています。中でも、体育祭（昨年から中・高別々に開催されるようになりました）や文化祭、合唱祭は、生徒の中から選ばれた実行委員会が企画段階から当日の運営まですべてを取り仕切っ



武蔵野祭（2009.9）



体育祭・ムカデ競走の一こま（2009.10）



老人ホーム訪問のボランティア活動



職場体験で幼稚園を訪問（2009.2）



ボランティアで清掃活動を（2008.3）



研究発表会（2008.3）

自己理解の深化…卒業研究テーマ例

平成21年のテーマ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物</li> <li>・ホームステイで見る日本の暮らし</li> <li>・青年海外協会の歴史</li> <li>・トマトの色々な新発見</li> <li>・仏教</li> <li>・戦時中の教育</li> <li>・民族音楽</li> <li>・気象と科学</li> <li>・建築工学</li> <li>・妖怪・怪物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山の植物分布</li> <li>・役に立つ面</li> <li>・日本の農業</li> <li>・裁判傍聴</li> <li>・少年犯罪</li> <li>・古地図から見える三鷹</li> <li>・自作スピーカー研究作成</li> <li>・プログラミングで解く数学</li> <li>・新エネルギー</li> <li>・ロボット</li> </ul>
--	---

卒論テーマ



## 年間行事紹介

て行われます。例えば、文化祭。今年のテーマは「フルスロットル」。実行委員長のK君(高2)によると、「全クラスからテーマを出してもらい協議して決めました。みんなで全力を出し合って、生徒が楽しむと同時に来校されるお客様にも存分に楽しんでもらえる学園祭を目指すキーワードとして掲げました。」とのこと。さまざまな問題や突発的なトラブルも一つずつ自分たちで解決して、りっぱな文化祭を演出できました。も

ちろん、表には出ないかたちで、指導教員のきめ細かなサポートがあったことも事実でしょう…。

こうした自主性を尊重した学校行事を通じて、生徒たちには困難を乗り越え成し遂げたときの「達成感」を存分に味わってもらいたいと思います。



中学生の林間学校 (2009.9) ↑



中学生の修学旅行(奈良石舞台) ↑  
(2009.10)



中学生の英語研修合宿 ↑  
(2009.10)



中学生の春の遠足 ↑  
(2009.4)

高校生による合唱祭 →  
(2009.2)



# クラブだより **野球部**

高等学校 2年 川 口 慧

現在、硬式野球部は2年生7人、1年生8人、マネージャー2人の計17人で活動しています。

活動日は木曜日以外で、土曜日は所沢グランドに行き練習、日曜日は主に練習試合をしています。平日は月曜と水曜が学校のグランド練習、火曜と金曜がトレーニングとなっています。たくさん

練習しているように見えますが、実際ボールを使って練習できるのは月曜と水曜と土曜だけ、更に月曜と火曜のグランド練習は狭い学校グランドを他の部と分け合って使用するため満足な練習ができず、また、約2時間程しか練習できません。部員も中学校で硬式を経験していた人はいなく全くの素人だらけです。しかし、こんなチームでも目標は甲子園、「打倒、選手を集めている学校」です。

こんなチームが強くなるためには個人が意識を常に高く持ち、少ない練習でどれだけ上手になれるかが重要です。練習の密度を他の学校の野球部より高めていかなければなりません。その練習内容も自分たちに足りないものを明確にして、それを埋めるための一番の近道を選ばなければなりません。そのためには野球

をもっと知る必要があります。

満足に練習することが出来ないとは言いましたが、その練習自体をすることが出来るのは顧問の先生を始めとする学校の方々、応援してくれている親あつてのものです。自分たちを支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れず、見てくれている人に「応援

したいな」と、言ってもらえるようなチームになりたいです。自分は野球が上手なわけでもなく、野球に詳しいわけでもなく頼りない主将かもしれません。でもだからこそせめて、野球に対する真摯な姿勢と感謝の気持ちを持つことでチームの手本になっていきたいと思います。



野球部メンバー



練習風景



# 東京千住キャンパス(100周年記念キャンパス)のご紹介 「TDU ルネッサンスと進化」を創設理念に

東京電機大学経営企画室

## 【ご挨拶】

本学は、新キャンパスを交通至便な足立区北千住駅東口前に創設することを平成20年6月に決定しました。これは次の100年を見据え、教育・研究のさらなる充実、強化を図るとともに、狭隘で老朽化した神田



キャンパスの問題を解決することを目的としたもので、「東京千住キャンパス(100周年記念キャンパス)」と命名しました。

創設理念には「TDU ルネッサンスと進化」を掲げ、文化教育立区を提唱する足立区と連携し、東京スカイツリーにもほど近い東京東部エリアの新しいまちづくりの一翼を担うことが期待されています。平成21年3月には、隣接する第2期計画地(I街区)の購入も決定し、本学のさらなる発展が期待されています。

## 【あらしし】

本学は、東京千住キャンパスで知の継承・発展の拠点にふさわしい、学生を主役とした理工系教育の理想、新しい大学像の実現を目指しています。神田キャンパスと比べ敷地面積は約2.5倍、延床面積は約1.2倍(第2期計画完了後は約1.6倍以上)になる予定で、ゆとりあるキャンパス

になります。建物は、世界的建築家の槇文彦氏の設計により主要4棟で構成し、アゴラやロジャとよぶ交流空間や500人規模の2つのホールを設けるとともに、図書館や学生厚生施設の充実を図ります。さらにユニバーサルデザインの採用、免震、制震、非常用設備など防災機能の充実、大規模な緑化、最先端の省CO<sub>2</sub>技術導入などを通じ、安心・安全な未来型のエコキャンパス実現を目指し、平成24年4月に新キャンパスを開設する予定です。どうぞご期待ください。

## 【概要】

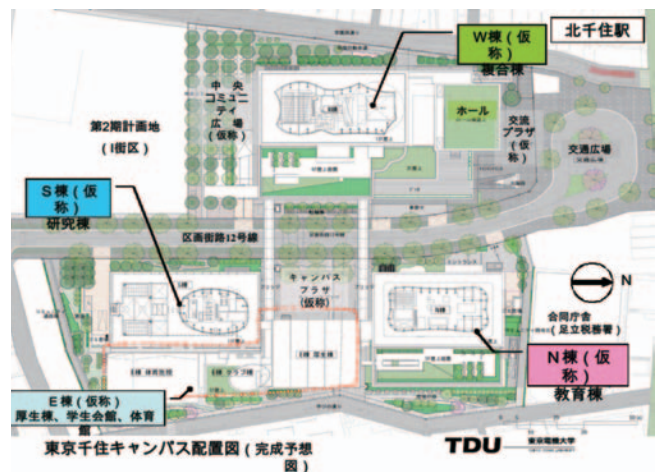
- ・住所：東京都足立区千住旭町52番地1他(北千住駅東口徒歩1分)
- ・開設時期：平成24年4月(予定)
- ・学部等名称：工学部、工学部第二部、未来科学部、関連する大学院、等収容学生数：約5,000名
- ・その他、併設施設(地域貢献施設、産学連携施設、国際共同研究施設など)

## 【設計事務所】

株式会社槇総合計画事務所：マスターアーキテクト(設計者)・統括管理事務所  
株式会社日建設計：構造及び設備設計

**\*詳細はホームページでもご紹介しています。**

**"<http://atom.dendai.ac.jp/new-campus/>"**





# 学園・時事と同窓会の歩み

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1907(明治40)年 9月	・ 広田・扇本両先生によって高等学校の母校である電機学校創設。	
1923(大正12)年 9月	・ 関東大震災により木造校舎焼失。	
1924(大正13)年 12月	・ 電機学校私設無線電信電話局 JMYM 認可される。NHK 東京放送局に先駆け送受信を行っていた。	
1928(昭和3)年 11月	・ NE 式写真電送成功	
1936(昭和11)年 2月	・ (2・26 事件発生)	
1939(昭和14)年 4月	・ 実業学校令による東京電機工業学校(高等学校の前身)を併設。昼間部・夜間部の課程を置く。	
3月	・ (第2次世界(欧州)大戦勃発)	
1941(昭和16)年 12月	・ (太平洋戦争勃発)	
1944(昭和19)年 4月	・ 校名を電機第一工業学校と改称、別に電機第二工業学校を設置。	
1945(昭和20)年 8月	・ (広島・長崎に原爆投下、戦争終結)	
1948(昭和23)年 4月	・ 学校改革により電機第一、同第二工業学校が合体して、電機学園高等学校となる。普通科新設。	
1949(昭和24)年 3月	・ 電機第一・二工業学校廃止。	
1952(昭和27)年 5月	・ 電検認定制度が変更され、本校が第一次試験免除校に認定。	
1956(昭和31)年 2月	・ 校名を東京電機大学高等学校と改称。	
1957(昭和32)年 4月	・ 文部省産業教育研究校に認定。	
11月	・ 創立50周年記念式典を東京体育館にて挙行。	
12月	・ (一万円札発行)	
1958(昭和33)年 10月	・ 文部省産業教育指定校として、研究発表会を挙行。	
1959(昭和34)年 1月		・ 高校同窓会設立の援助を校友会・および母校に願い出る。
2月		・ 母校より同窓会設立準備金として76,700円下賜される。
3月		・ 設立発起人会を開催。
4月		・ 創立総会を本館5階講堂で開催。校友会から高校同窓会設立を承認される。
1960(昭和35)年 11月	・ 丹羽保次郎学長、文化勲章受賞。	・ 勤務地区別同窓会名簿を発行する。
1962(昭和37)年 3月	・ 文京区後楽に高校校舎建設計画決定。	・ 初めて校友会経由で入会金が同窓会に入る。
1963(昭和38)年 3月	・ 高等学校の教育課程改定に伴い機械科、電子科、電気科、と改定する。	
1964(昭和39)年 3月		・ 総会でレリーフ基金募金開始を決定、募金活動を開始する。
6月	・ 山梨県八ヶ岳山麓に清里寮竣工。	
10月	・ (オリンピック東京大会開催)	
11月		・ 千代田区地区同窓会、中央地区同窓会発足。
1965(昭和40)年 4月	・ 文京区後楽に高等学校校舎ならびに体育館竣工、新校舎で授業開始。	
6月		・ 小石川新校舎で初の総会開催。
		・ 第1回の全卒者名簿の発行に協力。
1966(昭和41)年 4月		・ 勤務地区別同窓会名簿を改定発行。

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1968(昭和43)年		・レリーフ基金をもとに"若者の像"製作。
1969(昭和44)年 3月	・工業計測科廃止。	
1970(昭和45)年 3月	・(日本万国博覧会開幕)	
1973(昭和48)年 5月		・総会を兼ねて、湯島会館にて同窓会30周年記念、歴代校長を囲む会を開催。
1974(昭和49)年 4月		・第1回クラス委員名簿(住所録付き)を発行。
7月		・本年度より同窓会の新しい事業として、電機大学へ進学した新会員を対象とした、英語、数学の実力向上のため会員講習会を開催。
1975(昭和50)年 7月		・第2回の全卒者名簿の発行に協力。
1977(昭和52)年 6月	・大学理工学部開設と学園創立70周年記念式典を鳩山校舎にて挙行。	
1978(昭和53)年 6月		・本年度の総会で53・54年度の同窓会の事業として、創立40周年記念事業を推進することを決議。
1979(昭和54)年 6月	・高等学校創立40周年記念式典を「グランドパレス」にて挙行。	・同窓会創立20周年記念と総会を『グランドパレス』にて挙行。
	・東京私立中学・高等学校協会第四支部の支部長校となる。(任期1年)	・高等学校創立40周年記念式典と記念事業に協力。
1982(昭和57)年 6月		・総会後第一工業、第二工業の卒業生を招待、小石川体育館で懇親会開催。
		・第3回全卒者名簿発刊に協力。
11月	・学園創立75周年記念式典を『東京プリンスホテル』にて挙行。	
12月	・小石川校舎増築工事起工式。	
1983(昭和58)年 6月		・総会後、池谷元校長より「絵についての思い出」講演、懇親会場にも展示。
8月	・小石川校舎3号館竣工式。	
1984(昭和59)年 6月		・総会後清水元校長「小石川移転の思い出」を講演、懇親会場に佐藤吉弥先生の絵を展示。
7月	・機械科の募集、昭和60年より募集停止。	
10月		・同窓会25周年記念事業委員会で同窓会小冊子の発行を目的に編集小委員会を発足。
1985(昭和60)年 2月	・機械科を電子機械科に改編。	
3月	・(科学万博(つくば'85)開幕)	
6月		・「エレクトロニクス先端産業と今後の動向」についてS31卒石川明氏、小石川体育館にて講演。
10月		・"朋友"25周年特別号を発行。
1986(昭和61)年 4月		・"朋友"を同窓会会報として継続発行することとなり、創刊号発行。
11月	・(伊豆大島、三原山206年ぶり大噴火)	・第1回卒業生招待会(S17-S30迄)を開催。母校からの招待者240名出席。
1987(昭和62)年 1月		・電高祭で「優秀賞」の表彰。
		・第2回卒業生招待会を後楽園会館で開催(S31-S40年卒)。
1988(昭和63)年 3月	・(世界最長、青函トンネル開業)	
		・第3回卒業生招待会を小石川校舎体育館で開催(S41-S46年卒)。
1989(平成元)年 5月	・アイオワ大学工学部と推薦入学に関する協定書調印。	
1989(平成元)年 11月	・(ドイツ、ベルリンの壁崩壊)	・高等学校創立50周年、第4回卒業生招待会(全卒業者)日中友好会館で開催。

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1990(平成2)年 4月 9月 11月	・工業科を電子電気科、情報科学科に改編。 ・小金井校舎地鎖祭実施。	・同窓会設立30周年記念講演を卒業生、矢追純一氏(元日本テレビディレクター)「宇宙人は実在する!？」を講演。
1991(平成3)年 1月	・(湾岸戦争勃発、ソ連邦消滅宣言) ・小金井校舎建設資金募集開始、目標金額5億円、期間H3.1.1～H5.12.31。	
1992(平成4)年 3月 4月 6月 9月 10月	・小金井キャンパスに高等学校舎竣工。 ・文京区小石川校舎から小金井校舎に移転。新校舎にて授業開始。 ・電高祭からTDU武蔵野祭に改称。 ・電気科、電子科、電子機械科を廃止。電機学校廃止。	・小金井新校舎で初めて総会を開催。
1994(平成6)年 11月 12月	・東京電機大学中学校設置文部省に申請。 ・(阪神・淡路大震災) ・(オウム真理教による地下鉄サリン事件)	・同窓会機関紙「朋友」をタブロイド版の新聞形式で編集、送付決定。
1995(平成7)年 1月 3月 7月		・同窓会設立35周年記念講演として、元巨人軍打撃コーチ中畑清氏講演。
1996(平成8)年 4月 5月 6月 7月 11月	・東京電機大学中学校入学式。 ・東京電機大学中学校開設披露式挙行。	・第10回卒業生招待会開催(高校小ホール)。 ・第3回全卒業生名簿の発行に協力。 ・新聞形式の「朋友」を従来の冊子形式とし、中畑清氏の講演を掲載。
1997(平成9)年 7月 9月	・文部省、大学へ「飛び入学」を可能とする省令改正を公布、即日施行。 ・学園創立90周年記念式典を『東京国際フォーラム』にて挙行。日本人初の宇宙飛行士『秋山氏』が同会場にて記念講演。	
1998(平成10)年 6月 8月		・中学・高等学校同窓会会則を改定。 ・第1回三同窓会(電機学校・中高・大学)の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」にて開催。
1999(平成11)年 4月 6月 8月	・中学・高等学校男女共学となる。 ・高等学校の工業に関する学科(電子電気科情報科学科)生徒募集停止。 ・高等学校創立60周年記念式典を高校小ホールで開催。体育館で東京電機大学学長小谷誠氏「超電導の世界」を講演後、祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。	・同窓会設立40周年記念総会を高校会議室で開催後、記念の祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。 ・第2回三同窓会の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」で開催。
2000(平成12)年 6月 12月		・荻原会長から小長谷会長にバトンタッチ。 ・役員人事専門委員会発足。 ・第3回三同窓会(電機学校・中高校・大学)会長・副会長合同懇親会、神楽坂「鳥茶屋」にて開催。
2001(平成13)年 1月		・第4回三同窓会(電機学校・中高校・大学)会長・副会長合同懇親会開催。



年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
2001(平成13)年4月	・高等学校の工業に関する学科(電子電気科・情報科学科)を廃止。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初の女性同窓会会員誕生。</li> <li>・総会にて会則改訂により副会長3名体制となる。また下記3つの委員会が発足。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 朋友・しおり委員会</li> <li>2. クラス会促進委員会</li> <li>3. 業務IT委員会</li> </ol> </li> <li>・中・高同窓会 HP ページ開設。</li> <li>・第17回卒業生招待会開催(高校がエリア)。</li> <li>・小長谷会長から石崎会長にバトンタッチ。</li> <li>・数年ぶりの宿泊校外幹事会開催(伊豆高原荘)。</li> <li>・同窓会創立50周年記念式典挙行(第50回総会、)</li> </ul>
7月	・日本テレビ第25回鳥人間コンテスト選手権大会に出場。	
9月	・同時多発テロ(アメリカ)世界貿易センタービル崩壊	
2002(平成14)年3月		
4月	・東京電機大学新学長に当麻喜弘氏就任。	
6月		
11月	・東京電機大学同窓会創立50周年記念式典開催(椿山荘にて629名出席)。	
2003(平成15)年5月		
7月	・創立100周年記念事業募金開始。 目標額 15億円 期間 平成15年4月1日~平成20年3月31日	
2004(平成16)年3月	・21世紀COEプログラムが文部科学省により採択される。	
5月	・学園理事長に加藤康太郎氏就任。	
6月	・大学学長に原島文雄氏就任。 ・短期大学廃校。	
2005(平成17)年2月	・秋葉原ダイビルに秋葉原ランチ開設。	
3月	・校友会理事長に岡田榮一氏就任。	
2007(平成19)年9月	・学園創立100周年記念式典「日本武道館」にて挙行(祝賀会「帝国ホテル」にて)	
2008(平成20)年4月	・校友会理事長に石塚昌昭氏就任。	
4月	・大学キャンパスを足立区北千住駅東口前に創設することを決定。	
2009(平成21)年4月	・大学学長に古田勝久氏就任。 ・中学・高等学校長に向芝京太氏就任	
2009(平成21)年6月	・高校創立70周年記念式典、祝賀会(PTA60周年、後援会30周年合同開催)	
2009(平成21)年10月	・校友会創立100周年記念式典、祝賀会「ホテルグランドパレス」にて挙行	

# 学校・学科・年次別卒業生数一覧

卒業年次	東京電機工業学校 (S17・S18) 電機第一工業学校 (S20～)				電機第二工業学校				小計		合計	
	第1本科		第2本科		併設 中学	第1本科		第2本科		併設 中学		
	電気科	機械科	電気科	電気科		機械科	機械科	機械科				
	E	M	E	J	E	M	M	J	電機第一 工業学校	電機第二 工業学校		
S17			91							91		91
18	51		85							136		136
19												
20	101		91							192		192
21	58		48							106		106
22			100		133	50				100	183	283
23	53		106	161	78	26	8	243		320	355	675
24	116	26	65	359	190	49				566	239	805
合計	379	26	586	520	401	125	8	243	1,511	777	2,288	

卒業年次	全 日 制										定 時 制						小 計		合計	
	電 気 科										電 氣 科	機 械 科	電 気 科				全 日 制	定 時 制		
	電 力 課 程				電 氣 機 器 課 程		電 氣 通 信 課 程		電 氣 計 測 課 程	電 力 課 程			電 氣 機 器 課 程	電 氣 通 信 課 程						
	E1	E2	E3	E4	M1	M2	C1	C2			I	E			M	E1	E2	M		C
S24											94	10						104	104	
25	54	52			64		39						42	44				209	86	295
26	48	48	51	48	51		45						49	47	27	60		291	183	474
27	51	50	5		46	43	53						40	46	50	37		293	173	466
28	56	57			51		50						53		38	64		214	155	369
29	48	37			62		55		30				47		40	39		232	126	358
30	55	53			36	44	54		38				55		3	40		280	125	405
31	55	49			59		58	56	33				50		28	57		610	135	445
32	52	54			49		59	60	38				72		41	51		312	164	476
33	56	59			55		63	63	48				55		36	64		344	155	499
34	61	66			62		51	54	60				49		41	44		354	134	488
35	56	59			52		6	65	56				59		48	54		348	161	509
36	63				55		61	60	52				67		50	60		291	177	468
37	62				64		61	64	66				73		65	65		317	203	520
38	58	61			67		63		59				70		57	59		308	186	494
39	60				49		56	53	54				62		53	55		272	170	442
40	65				65		63	67	57				51		33	58		317	142	459
41													47	47		52			146	146
合計	1,694				974		1,433		591	94	10	1,125	637	859	4,692	2,725	7,417			

卒業年次	全 日 制									定 時 制			小 計		合 計
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	電 子 機 械 科	電 気 科		電 子 科	全 日 制	定 時 制	
	E1	E2	E3	D1	D2	M1	M2	I	M	E1	E2	C			
S41	68	66		68	69	54		62					387		387
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519
43	54	54		58	54	54		55		46	41	37	329	124	453
44	60	64	28	67	64	68		28		64	22	42	379	128	507
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68	392
46	66	63		61	64	55	55			47		20	364	67	431
47	56	55		58	59	58	59						345		345
48	50	51		52	52	53	53						311		311
49	56	57		51	51	52	49						316		316
50	55	52		61	63	49							280		280
51	52	50		43	50	48							243		243
52	59	59		58	56	50							282		282
53	60	56		59	66	56							297		297
54	51	55		49	51	52							258		258
55	50	47		56	55	43							251		251
56	49	50		49	51	51							250		250
57	54	54		57	55	48							268		268
58	50	47		51	54	53							255		255
59	51	53		54	51	50							259		259
60	50	50		43	43	50							236		236
61	54	52		50	53	54							263		263
62	49	52		54	51	46							252		252
63	49	49		47	48				53				246		246
H1	54	52		51	51				50				258		258
2	52	51		49	53				53				258		258
3	45	49		51	51				54				250		250
4	51	52		51	53				53				260		260
合 計	2,994			2,945		1,409		201	263	348		167	7,812	515	8,327

卒業年次	全 日 制					合 計
	電 子 電 気 科			情 報 科 学 科		
	D1	D2	D3	C1	C2	
H5	44	43	44	46	44	221
6	42	39	42	42	41	206
7	40	43	43	37	41	204
8	40	39	39	41	44	203
9	46	48		46	43	183
10	44	42		43	43	172
11	42	39		40	42	163

卒業年次	全 日 制					合 計
	電 子 電 気 科			情 報 科 学 科		
	D1	D2	D3	C1	C2	
H12	41	39		41	39	160
13	40	42		42	41	165
合 計	921			756		1,677



卒業 年次	全 日 制					合 計
	普 通 科					
	L1	L2	L3	L4	L5	
S27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	51	54	57	54	270
47	49	49	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	52	55	48		207
50	51	50	51	51	50	253
51	53	53	54	52	42	254
52	52	54	53	51	52	262
53	52	54	53	51	52	260
54	55	56	56	56	49	271
55	54	53	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	51	54	52	48	258
58	51	50	51	51	52	255
59	51	50	49	50	51	251

卒業 年次	全 日 制												合 計	
	普 通 科													
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12		
S60	47	46	46	45	43									227
61	46	47	45	47	47	46								278
62	54	53	54	54	52									267
63	47	46	47	47	47	48								282
H1	28	47	46	47	46	47								261
2	30	49	49	47	48	47	25							295
3	26	49	49	49	49	L <sup>6-7</sup> <sub>40</sub>								267
4	24	43	41	43	41	41	L <sup>7-8</sup> <sub>40</sub>							273
5	L <sup>1-7</sup> <sub>22</sub>	40	39	39	42	41								223
6	L <sup>1-8</sup> <sub>16</sub>	43	42	42	43	L <sup>6-7</sup> <sub>40</sub>								226
7	L <sup>1-8</sup> <sub>27</sub>	40	39	39	40	L <sup>6-7</sup> <sub>39</sub>								224
8	23	45	45	45	44	L <sup>6-7</sup> <sub>40</sub>								242
9	29	32	33	41	37	L <sup>6-7</sup> <sub>46</sub>								218
10	22	44	44	44	46	27								227
11	36	42	43	43	31									195
12	40	40	37	41	L <sup>5-6</sup> <sub>42</sub>									200
13	40	36	39	39	L <sup>5-6</sup> <sub>41</sub>									195
14	L <sup>1-2</sup> <sub>26</sub>		23	40	41	39	37	38	38	L <sup>10-11</sup> <sub>39</sub>	31			352
15	L <sup>3-4</sup> <sub>34</sub>		L <sup>3-4</sup> <sub>34</sub>	31	32	31	41	39	39	43				324
16	L <sup>1-2</sup> <sub>21</sub>		28	42	41	42	38	36	30	36				314
17	L <sup>1-2</sup> <sub>35</sub>		37	37	37	36	36	36	L <sup>9-10</sup> <sub>41</sub>		37			332
18	31	26	28	39	40	39	39	33	36	35				346
19	L <sup>1-2</sup> <sub>39</sub>		39	41	41	30	33	L <sup>8-9</sup> <sub>31</sub>		L <sup>10-11</sup> <sub>27</sub>				281
20	L <sup>1-2</sup> <sub>40</sub>		L <sup>3-4</sup> <sub>39</sub>	44	45	32	31	34	L <sup>10-11</sup> <sub>36</sub>		30			331
21	L <sup>1-2</sup> <sub>38</sub>		L <sup>3-4</sup> <sub>38</sub>	37	35	36	36	L <sup>9-10</sup> <sub>37</sub>		22				289
合 計														12,399

卒業 年次	中 学 校					合 計
	A	B	C	D		
H11	28	27				55
12	26	25	25			76
13	31	31				62
14	19	20				39
15	30	30	31			91
16	30	31	29			90
17	29	28	29			86
18	28	27	28			83
19	32	31	31	31		125
20	35	33	33	33		134
21	35	30	30	31		126
合 計						967

# 学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

平成 21 年、中学・高等学校は創立 70 周年を迎えました。昭和 14 年、東京電機工業学校が設立されてから、第二工業の設立、校名変更や学科改変等により、クラス編成は大きく変わりました。

平成 21 年 3 月までの卒業生は 33,075 名、クラス数は 671 になります。各クラスにはクラス委員 1 名（昭和 59 年以降は 2 名）の方をお願いしていますが、住所変更による連絡不能や病気等により欠員となっているクラスが大変多くなっています。

同窓会はクラス会の開催が活発に開かれることを活動の大きな柱としています。クラス委員の方は、クラスの代表としてクラス会開催を通じて、同窓会、校友会、中学・高等学校とのパイプ役をお願いしていますが、これからも会員の皆様共々ご協力をお願い申し上げます。

## 【凡例】

18	(清水 明)	・上段 クラス担任、( ) 内物故者
	和方 重治	・下段 クラス委員

卒業年次	東京電機工業学校 (S17・S18) 電機第一工業学校 (S20～)				電機第二工業学校			
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	電気科	
	E	M	E	J	E	M	E	J
S17			(稲垣 忠雄) (橋本健之助)					
			内藤喜三郎					
18	(隄 良富)		(清水 明)					
	渡辺 和正							
19								
20	(高橋 源八) (清水 明)		(橋本健之助)					
	飯田 良平		北村 功男					
21	(首藤 富家)		(作道 兵次)					
	倉持 悦久							
22			(服部 三郎)		(磯部 直吉) 原口 喜八	加藤 高治		
			栗野 昭		柳沢 順一			
23	(清水 明)		(吉田 字一) (服部 三郎)		深海登世司 (岩佐 徹)	(早川 喜知)	(伊藤 克己)	
	和方 重治					清水 清		
24	(宮坂 亀夫) (高橋 源八) (角田 秀夫)	(首藤 富家)	(吉田 字一)		(岩佐 徹) 深海登世司 原口 喜八 (吉田 字一)	(首藤 富家)		
		常広 武雄			池田八十雄 滝口 郁夫	岡田 清		



卒業 年次	定 時 制					
	電気科	機械科	電 気 科			
			電 力 課 程		電 気 機 器 課 程	電 気 通 信 課 程
	E	M	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	M	C
S24	(吉田 宇一)	(伊藤 克己)				
	阿久津 功	横山 実				
25			(服部 三郎)	(吉田 宇一)		
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	(伊藤 克己)	原口 喜八
				依田 信二		深海和太郎
27			横田良次郎	鈴木 徳三	(伊藤 克己)	原口 喜八
			矢野 善治		山中 一	小林 健雄
28			(河辺 貞夫)		(首藤 富家)	森田 恒久
			佐藤 守弘			
29			鈴木 徳三		(首藤 富家)	(角田 秀夫)
					北風 康夫	
30			(河辺 貞夫)		横田良次郎	(板垣 光夫)
					松本 和夫	
31			小針 藤男		(首藤 富家)	(角田 秀夫)
32			(河辺 貞夫)		(大渡 正治)	(板垣 光夫)
			茂木 実		吉川 洋	
33			小針 藤男		(大渡 正治)	(角田 秀夫)
34			(角川 一治)		小針 藤男	中島 輝夫
					保坂 仁	椎津 利雄
35			(角川 一治)		(大渡 正治)	中島 輝夫
36			(桜井 松治)		横田良次郎	中島 輝夫
			野村 力男			富山 晃宏
37			(杉野 良知)		(桜井 松治)	横田良次郎
			石崎 泰司			
38			(杉野 良知)		下崎 和彦	(大江 康男)
						中山 勇次
39			(大江 康男)		(吉田 宇一)	白川 守昭
					大塚 忠克	坂本 寛
40			(吉田 宇一)		下崎 和彦	松岡 三夫
41			見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一
			富安 和雄	矢部 好雄		岩崎 溥

卒業 年次	定 時 制		
	電 気 科		電 子 科
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	D
S42	横 将	山崎 修快	(鈴木 治郎)
43	高久 広毅	(人見 芳行)	(鈴木 治郎)
	加賀 勉	厚屋 豊	
44	(人見 芳行)	(鈴木 治郎)	(鈴木 治郎)
		小林 幸男	
45	(鈴木 治郎)		(鈴木 治郎)
	金子 英司		乗添 和昭
46	(鈴木 治郎)		(鈴木 治郎)

卒業 年次	高 等 学 校									
	電 気 科									
	電 力 過 程				電 気 機 器 課 程		電 気 通 信 課 程		電 気 計 測 課 程	
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	E <sub>4</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	I	
S25	(高橋 源八)	岩佐 徹			(首藤 富家)		(角田 秀夫)			
					常広 武雄		森山 満隆			
26	(野口 茂)	(大江 康男)	(吉田 宇一)	加藤 高治	(佐藤 善慶)		中島 輝夫			
	安岡 義三 加藤 正樹			中島 政良	辻 貞夫 大堀 岩寿		寺本 佳照			
27	(平野 三郎)	(大渡 正治)	(林 六郎)		(中沢(齊藤)実)		(板垣 光夫)	(桜井 松治)		
	宇野 敬助		山路重登至		壁矢 浩一			田中 肇		
28	(野口 茂)	(角田 秀夫)			(桜井悌二郎)		鈴木 藤男			
29	(小西 吉孝)	(佐藤 善慶)			(中沢(齊藤)実)		中島 輝夫			(伊藤 克己)
										尾島 崇弘
30	(林 六郎)	(神庭 明)			(大渡 正治)	(吉田 宇一)	(桜井 松治)			(大江 康男)
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男			
31	(杉野 良知)	(野口 茂)			鈴木 徳三		(吉田 孝俊)	(伏見栄治郎)	(伊藤 克己)	
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志	小長谷 登 小宮 秀昭	
32	(角川 一治)	(桜井悌二郎)			(中沢(齊藤)実)		中島 輝夫	(寺尾 功吉)	(伊藤 克己)	
	倉林 純一				加藤 孝一 広瀬三千雄		増田 克己	柳 博		
33	(板垣 光夫)	渡辺 明			(吉田 宇一)		(桜井 松治)	横田良治郎	(大江 康男)	
	飛田 偉靖				後藤 隆夫					
34	(杉野 良知)	鈴木 徳三			(中沢(齊藤)実)		(野口 茂)	(吉田 孝俊)	(伊藤 克己)	
	大久保秀幸	武藤 正二			松下 祐輔			仲野 成憲	中野 善夫	
35	(佐藤 吉弥)	(吉田 宇一)			(鈴木 治郎)		(角田 秀夫)	(佐藤 善慶)	(大江 康男)	
	北村 義明	遠藤 正二			鈴木 整司			見崎 正行	内山 彰	
36	(板垣 光夫)				小針 藤男		(佐藤 善慶)	白井光太郎	(伊藤 克己)	
					林 昭吉				藤田 安彦	
37	(野口 茂)				齋藤 広吉		(大渡 正治)	(角田 秀夫)	石川 孝志	
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦		
38	大田 健	(吉田 宇一)			横山 実		(鈴木 治郎)		(伊藤 克己)	
	形屋 憲一	佐藤洋志郎			石川 邦雄				鶴見 勝義	
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 政夫	白井光太郎	(渡辺 大)	
								三橋 慶二	渡辺 正行	
40	(中村 広幸)				(齋藤 広吉)		(桜井 松治)	(菊地 諒)	(伊藤 克己)	
								川村登志一		

卒業 年次	高等学 校							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工業計測科
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>1</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	I
S41	大田 健	大田 健		(角田 秀夫)	(鈴木 治郎)	横山 実		中田 勇
				林 猛	印宮 登			
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一	(伊藤 克己)		(大江 庚男)
	藤井 慶一	下平 龍夫	畑山 昭一	平賀 徹	長谷川明夫		寺本 佳照	
43	齋藤 成信	(中村 広幸)		(桜井 松治)	(菊地 諒)	齋藤 広吉		(渡辺 太)
		和田 真一						
44	中村 隆一	中田 勇	宮崎 登	高村 弘昭	見崎 正行	横山 実		(大江 庚男)
	赤川富美樹	山越 茂雄	由井 康雄	花嶋 秀年	大森 雅利	岡田 和恭		
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
		岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 嘉之	鳥飼 洋一	
46	大田 健	(中村 広幸)		白井光太郎	高村 弘昭	石川 孝志	(伊藤 克己)	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畑 有三		
47	(鈴木 治郎)	(渡辺 太)		見崎 正行	中村 隆一	(大江 庚男)	山田 宏明	
		山田 宏己		中島 昇	持木 文男		船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 利夫	斉藤 隆男		日野 一武	渡辺 智章	林 達也	大羽 克己	
49	間辺幸三郎	(高橋 源八)		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	(中村 広幸)	
	柳橋 幸治	山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	(高橋 源八)	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高瀬 裕司	水上 滋雄		大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	(大江 庚男)	横山 実		
		神田 正一		柳川 守		池田 好明		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		(菊地 諒)	大谷 稔	横 将		
		大塚 徹		中村 功				
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁	河野 吉伸 諸井 満		秋山 増満	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平沢 輝男		
55	松岡 三夫	津村 栄一		(菊地 諒)	高村 広昭	横 将		
	榊原 俊行			山田 富夫	稲川 秀勝			
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	(林 幸男)	横山 実		
	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要治郎	比留間幸雄		
57	(齋藤 広吉)	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
					今尾 裕	早坂 勝浩		
58	(鈴木 治郎)	津村 栄一		見崎 正行	(人見 芳行)	山路 雅一		
				山本 誠人		江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹 佐藤 和幸	星野 雅幸 亀岡 和裕		大曾根康史	土屋 岳	鈴木 久郎 鈴木 正成		
60	(齋藤 広吉)	大田 健		(渡辺 太)	前嶋 万人	小峯 龍男		
	青沼 孝	宮崎 佳之		石井 俊一	染野 明 笠木 孝夫	猪鼻 一芳 岩崎 道義		
61	津村 栄一	(鈴木 治郎)		見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治		
	中村 登	酒井 光利		鳴島 浩 増喜 太郎	大和田 誠 松下 慎一	新井 智也 山岸 岳人		
62	(齋藤 広吉)	(渡辺 太)		中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫		
	石田 亮	館澤 直紀		豊島 徹朗 田中 篤史	岩下 英一 児玉 泰輝	村井 潤 山本 克郎		



卒業 年次	全 日 制				
	電 気 科		電 子 科		電子機器科
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	M
S63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴	小峯 龍男
	村田 周也 藤本 賢司			川勝 真喜 永木 康弘	佐藤 秀明 柳澤 恵行
H1	中田 勇	津村 栄一	見崎 正行	内山 章夫	古城 仁
		西野 英一 渡辺 浩成	池田 靖規 関根 康史	清水 憲一 矢澤 哲広	白川 憲悟
2	(鈴木 治郎)	妹尾 敬	中村 隆一	(上前 隆雄)	大久保 靖
	戸塚 敏朗 佐々木武志	草野 健一 高木 道夫	網藤 智	中島 浩一	玉手 秀典 野見 貴行
3	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷 哲弘	小峯 龍男
	甘利 友朗 佐藤 淳	落合 崇 高橋 好晴	山下 和彦	村社 敏夫	石沢 岳彦 久保田恭弘
4	中田 勇	(深川 紘司)	内山 章夫	(林 幸男)	石松栄一郎
	石井 英二	井尻 崇	立脇 竜 谷 伸彦	岡山 進一 両角 祐樹	中村 一道 吉田 康輔

卒業 年次	全 日 制				
	電 子 電 気 科			情 報 科 学 科	
	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	D <sub>3</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>
H5	津村 栄一	(上前 隆雄)	平川 吉治	中村 隆一	八百屋尚志
	根本 雅範	青木 圭樹	片山 誠司 松丸 弘樹	田島 真 平野 文崇	照井 博志 高橋 洋一
6	見崎 正行	河野 吉伸	五十木基晴	小峯 龍男	渡邊 盾夫
	福田 貴之 中山 竜一	石井 淳 原田 洋介	玉井 貴司 西田 哲郎	市川 大輔 遠藤 好鏡	小林誠之助 小 一
7	前嶋 万人	平山 桂樹	内山 章夫	深谷 哲弘	生熊 勝彦
	稲垣 裕介 加藤 貴仁	西部 洋晴 林 大樹	柴田 亨 山本 和裕	岩本 雅輝 田原 裕之	
8	津村 栄一	大久保 靖	今福浩太郎	(林 幸男)	山内 雄司
	齋田 清隆 吉澤 博之	榎本 裕文 森田 圭一	宮田 和久 武田 知之		高橋 和義
9	河野 吉伸	山崎 武光		小峯 龍男	鈴木 純
	相原 浩明 小村 亮太	干野 一夫		佐藤 大典	森田 正彦 松澤 雄生
10	前嶋 万人	陰山 稔		大湯 幸夫	深谷 哲弘
	増田 隆裕	渡邊 芳弘		稲光 隆史 庄司 寿一	佐藤 岳人 熊田 章央
11	津村 栄一	渡邊 盾夫		(林 幸男)	山住 直政
	大澤 青吾 柴田 政哉	石田 雅也 藤井 毅		岡野 勝成 河村 洋行	篠原 昌司 吉田 好児
12	内山 章夫	前嶋 万人		小峯 龍男	松沢 俊也
	島村 武志 中村 徳秀	石川 賢 和田 純一		石川 仁寿 田村 秀峰	木村 峻二 島田 憲明
13	河野 吉伸	生熊 勝彦		大湯 幸夫	小松 寛明
	宮本 健太	小田 敬 篠田 雄生		長谷川達視 湯浅 善夫	谷 桂介 新井 義之

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>
S27	(青木 成宗)				
28	(吉田 孝俊)				
29	(宮本 敏雄)				
30	(平野 三郎)				
31	(佐藤 吉弥) 黒岩 藩				
32	大久保芳随 松島 努				
33	(神庭 明)				
34	(伏見栄次郎)				
35	大久保芳随 北原 泰彦				
36	(神庭 明)(大渡 正治) 内桶 功一 植田 正昭				
37	(伏見栄次郎)(吉田 孝俊) 藤田 明也				
38	大久保芳随 (伏見栄次郎) 我妻 功規				
39	(神庭 明)(板垣 光夫) 渡辺 幸久				
40	(吉田 孝俊)(伏見栄次郎)(平野 三郎) 渡辺 貞綱 中村 俊則 高橋 新平				
41	(大渡 正治)(杉野 良知) 石川 孝志 大久保芳随 村田 陽一 齋藤 彰				
42	中島 輝夫 山田 宏明 (磯部 昭二) 白川 守昭 光木 保臣 戸江 栄一 荒 教				
43	(神庭 明) 石川 孝志 (板垣 光夫) (吉田 孝俊) 大沼 一博 六反田和幸				

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>
S44	山田 宏明 (磯部 昭二) 中村 圭佑 大久保芳随 渡辺 洋一 木伏 明人				
45	中島 輝夫 五十木基晴 則友 克敏 白川 守昭 津田 浩二				
46	(杉野 良知) 横 将 (板垣 光夫) 高久 広毅 茂木 雅博 染矢 清和				
47	大久保芳随 (磯部 昭二) 齋藤 成信 高久 広毅 浅見 正一				
48	中島 輝夫 (人見 芳行) 則友 克敏 白川 守昭 木村 孝由				
49	(杉野 良知)(板垣 光夫) 石川 孝志 茂木 雅博 半田 孝 新井 建也 藤田 清				
50	(杉野 良知) (磯部 昭二) 齋藤 成信 高久 広毅 山田 宏明 黒田 正人 古城 仁 秋山 公一				
51	石川 孝志 則友 克敏 (人見 芳行) 松岡 三夫 (林 幸男) 安藤 政且 石井 正一 種田 光利				
52	(神庭 明) 白川 守昭 (板垣 光夫) (中村 広幸) 茂木 雅博 小野木広行 石渡 上				
53	(杉野 良知) 中村 圭佑 松岡 三夫 高久 広毅 齋藤 成信 目黒 香一 相原 浩一 遠藤 史郎				
54	石川 孝志 則友 克敏 (磯部 昭二) 生熊 勝彦 (板垣 光夫) 宮本 真人 坂本 高孝				
55	(大江 康男) 齋藤 成信 (人見 芳行) (林 幸男) 茂木 雅博 花房 勤 貴田真一郎 生方 健二				
56	五十木基晴 中村 圭佑 宮本 治 高久 広毅 白川 守昭 大館 昭彦 糸川 剛 道伝 弘昌 森 孝志				
57	大谷 稔 田上 光治 (磯部 昭二) 石川 孝志 (板垣 光夫) 木村康二郎 小林良太郎 小野寺智幸				
58	(大江 康男) 石井 和之 高村 広昭 横 将 松岡 三夫 渡辺 一夫 及川 俊也 飯田 公司 岩井 厚 長堀 岳治				
59	宮本 治 吉場 章二 高久 広毅 大谷 稔 白川 守昭 鈴木 幹也 内藤 剛 松島 克幸 藤原 国之 中島 忠彦 鶴岡 英道				
60	山田 宏明 (人見 芳行) (林 幸男) (磯部 昭二) 山崎 晴康 宮田 寛 高田 剛史 小宮山敏樹 今中 繁義 腰原 潔 山本 毅				

卒業 年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>	L <sub>6</sub>	L <sub>7</sub>
S61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	榎 将	吉場 章二	飯島 稔	
	鈴木 健史	海老澤 浩 西木 章員	服部 義郎	岩見田慎也 志村 祐幸	木斉 央	安達 三博 横田 昇	
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	齋藤 成信	平山 桂樹		
	大畑 和彦 渋谷 郁夫	佐々木 徹	永井 智人	高橋 宏明 平石 貞行			
63	山崎 晴康	(人見 芳行)	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔	
	高橋 政人	鈴木 理裕	齋藤 貴浩				
H1	中村 圭佑	(林 幸男)	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔	
	大石 洋治	中西 勇人	入江 睦也	青木 健	小暮 忠 神保 秀樹	小山 秀樹	
2	白川 守昭	山崎 武光	高久 広毅	宮本 治	生熊 勝彦	川口 純	平山 桂樹
	佐伯裕次郎 小山 克也	服部 正樹 林田 英明	河相 崇 村松 信秀	青木 義幸 中山 博	遠山 竹司		高月 陽介
3	齋藤 成信	(人見 芳行)	高村 広昭	八百屋尚志	則友 克敏	L6-7	山崎 晴康
	高田 忍	鈴木 勇	多胡 真宏 森 正直	山外 智一	浅野 貴行 大月 直哉	藤井 桜井	宣彰 隆雄
4	中村 圭佑	黒沼 康広	榎 将	田上 光治	向芝 京太	山崎 武光	L7-8 飯島 稔
	横田 智寛	長澤 将章 吉田 浩康	五十嵐哲哉 仁平 雅実	田沼 玲男	戸部 拓也		田邊 敏宏 木野 岳人
5	L1-7 高久 広毅	宮本 治	大谷 稔	川口 純	妹尾 敬	大久保 靖	
	北川 研	小川 智成 田口 浩	飯塚 正基 鈴木 貴宏	中杉 俊之 山崎 啓誉	金子 泰夫 關口 昌宏	福田 弘明	
6	L1-8 斉藤 成信	古城 仁	高村 広昭	前田 輝明	吉場 章二	L6-7 山崎 晴康	
	小股 淳 小木 勇樹	沖 壮一郎 米田 睦仁	大野敬一郎 川島 俊彦	武部 洋行 渡邊 貴恒	中野 徳康	松本 剛	
7	L1-8 田上 光治	中村 清孝	(人見 芳行)	米山 裕	黒沼 康広	L6-7 飯島 稔	
	中西 俊輔		田村 智文	高橋 寛	北原 秀和 富澤 宗介	有馬 裕輔 竹内 将人	
8	宮本 治	八百屋尚志	(上前 隆雄)	大谷 稔	吉場 章二	L6-7 平川 吉治	
	新井 政弘 石井	在田 亮二	太田 達也	今井 亮介	大井 亮祐 加藤 寛志	比留間 潤	
9	向芝 京太	妹尾 敬	飯島 稔	前田 輝明	松澤 俊也	L6-7 高村 広昭	
	田所 覚 野口 智弘	清水 直広 中村 誠	波田誠一郎 渡邊 学	工藤 太郎 松岡 雅之	三牧僚太郎 山崎 裕幸	宮澤 克則 小岩 慶仁	
10	向芝 京太	(人見 芳行)	古城 仁	山崎 晴康	加藤 学	川口 純	
	阿部 俊哉	今井 寛	今井 木村 健詞 明紀	金子 昌孝	茶屋道圭太	高橋 雄一 永井隆太郎	
11	吉場 章二	平山 桂樹	米山 裕	前田 輝明	疋田 康之		
	小川 太介 白土 雅教	木村 太亮 比恵島 豊	松井 智	梅田 和弘 仲村 友宏	横原 章二		
12	(上前 隆雄)	妹尾 敬	飯島 稔	山崎 武光	L5-6 高村 広昭		
	長谷部健太	加藤健次郎	杉田 真也 中 俊典	野澤 明正			
13	向芝 京太	今福浩太郎	渡邊 盾夫	加藤 学	L5-6 山崎 晴康		
	石原 春彦 田村 純一	牧原 康一 平柳 欽司	横山 大志 十川 基	岩井 雄介 入谷 太基	西浦雄主介 横田 和弘		



卒業 年次	全 日 制 普 通 科											
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>	L <sub>6</sub>	L <sub>7</sub>	L <sub>8</sub>	L <sub>9</sub>	L <sub>10</sub>	L <sub>11</sub>	L <sub>12</sub>
H14	L1・2 吉場 章二	樋田 毅	深谷 哲弘	津村 栄一	北園 桂子	(林 幸男)	磯谷 和樹	平山 桂樹	L10・11 山内 雄司	川口 純		
	井上 誕 飯沼 貴之	杉本 寛 南元 大輔	渡部 裕也 鶴田 裕征	木内 正樹 寺田 史	菅原龍之介	安保明日香 葛井 博行	青木 亜都 荒井 勉	瀧 淳仁 松川 彩子	鈴木 幸代 滝田 陽介	松本 恭子 村瀬麻里奈		
15	L1・2 山崎 武光	L3・4 黒沼 康広	山住 直政	(上前 隆雄)	妹尾 敬	陰山 稔	奥原もな美	加藤 学	飯島 稔			
	柏木 啓志 長尾惣太郎	有澤 岳 白田 俊彬	杉本 悠樹 渡邊 信人	持田 直之	茅野 尚人 羽立 新吾	岡野 理紗 中村 聡	副島 亮子 山本 堂之	兼康 友和 佐川 壽朗	浅賀 智人 佐藤 剛			
16	L1・2 平川 吉治	前田 輝明	小峯 龍男	渡邊 盾夫	深谷 哲弘	米山 裕	疋田 康之	山崎 晴康	山田 朋実			
	篠田 親吾 高橋 弘実	宮川 真典	杉田 裕介 松浦 甚太	能島 智之 本 達也	阿部恵理華 井上 富子	及川 蘭夢 笹川 千春	堀 悠吾 村山 幸弘	宮崎真努華	田代 祐樹 三浦 功二			
17	L1・2 樋田 毅	内山 章夫	平山 桂樹	松沢 俊也	(林 幸男)	原田 苗美	山本 将也	L9・10 吉場 章二	大塩 博美			
	野原 和久 金子芽久未	熊川 雅文 根岸 宏行	清水 彰人 小林 直樹	於曾能 優 田島 光泰	金子 仁美 和田 一貴	関 真奈美 大久保伸一郎	高木 篤大 相川 貴彦	三好 隆文	杉本 大輔			
18	黒沼 康広	(上前 隆雄)	加藤 学	渡邊 盾夫	河野 吉伸	山住 直正	陰山 稔	小松 寛明	山崎 武光	奥原もな美		
	小倉宏太郎 田中 元彬	井上 公平 大塚 恭子	河合 雅文 呉地 翔太	藤村 洋平 山中健太郎	豊美 春平 日比谷康貞	長谷川知生 舟橋 明里	青木 一央 安田 利葉	城石 健治 蜂須 拓	荻野 志乃 日榮 彩乃	須之部友美子 田中 邦治		
19	L1・2 疋田 康之	前田 輝明	小峯 龍男	米山 裕	磯谷 和樹	山崎 晴康	L8・9 山田 朋実	L10・11 斉藤 周				
	林 直之 原田 空幸	中村 裕美	肥土 昇 塚 里樹	条原 功能 佐藤葉瑠紀	伊藤 功能 飯田 慧	石川 智博 平木 希美	田川 翔 小林 薫	岩谷 彰太 小池 璃沙				
20	L1・2 樋田 毅	L3・4 黒沼 康広	内山 章夫	妹尾 敬	北園 桂子	松沢 俊也	星野 智	L10・11 飯島 稔	平山 桂樹			
	松田 裕子 森 壮人	中村 祐輔 松本美和子	加賀屋 基 佐竹 洋人 佐藤 将吾	櫻野 佑佳 馬場麻梨子	都筑 美和 山上 愛里	田子内憂騎 堀 光太郎	北村 龍太 中村 文哉	野瀬 智史 川上 博久	河内裕太郎 瀧澤 健介 内藤可南子 山岸 由季			
21	L1・2 加藤 学	L3・4 小松 寛明	小峯 龍男	深谷 哲弘	松沢 俊也	(上前 隆雄)	L9・10 陰山 稔	奥原もな美				
	猪原 英之 佐々木友美	松永 一朗 尾崎 充美	桜井 駿 貫井 雄太	池ノ内信哉 田中翔太郎	齋藤 広 森谷 明功	相田 龍助 高村 優輔	石川裕子 印南 賢人 福地 萌子	原田 直太 寶藏寺朱保				

卒業 年次	中 学 校 全 日 制				
	A	B	C	D	
H11	大久保 靖	樋田 毅			
	南元 大輔	杉本 寛朗			
12	大谷 稔	黒沼 康広	鈴木 純		
	平澤 誠	山下 康平	堀山 正雄		
13	古城 仁	平川 吉治			
	依田 晃太				
14	大久保 靖	市川麻紀子			
	金子芽久未	野原 和久			
15	鈴木 純	松下 佳代	大谷 稔		
	小倉宏太郎	鈴木 亜希	長塚 将		
16	古城 仁	今井 威史	今福浩太郎		
		五十嵐祐馬	米内 俊裕		
17	川口 純	北園 桂子	山内 雄司		
	中村 祐輔	松本美和子	森 壮人		
18	鈴木 純	阿部 裕之	深見 雅子		
	佐々木友美	芳賀 崇文	尾崎 充美		
19	今福浩太郎	影山 大	樺山 裕子	今井 威史	
	瀬戸山祐一	西田 正実	山崎 大	佐藤 修太	
20	山内 雄司	松下 佳世	川口 純	高橋 成弥	
	黒川 佳保	栗原 義裕	高波 里美	相澤 駿	
21	阿部 裕之	柴山 恵実	深見 雅子	平川 吉治	
	林 未希	新海 健太	松野 未佳	椿 万実	

# 東京電機大学中学・高等学校同窓会会則

## 第1章 名称および事務所所在地

第1条 本会は東京電機大学中学・高等学校同窓会と称す。

第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1東京電機大学中学・高等学校内に置く。

## 第2章 目的

第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繫を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以って目的とする。

## 第3章 会 員

第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。

2 正会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。

3 準会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の在校生とする。

4 特別会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。

第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

## 第4章 役 員

第6条 本会には次の役員を置く。

一 名誉会長1名

二 顧問および参与若干名

三 幹事25名以上50名以内(うち、会長1名、副会長若干名、会計、庶務各若干名を含む)会計監査2名

四 クラス委員を各クラス2名を置くことができる。

第7条 名誉会員、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べることができる。

2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。

3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

4 会計は本会の会計を担当する。

5 庶務は本会の庶務を担当する。

6 幹事は会務を分担し、本会の運営に当たる。

7 クラス委員はクラス会を開催し、本会との連絡を緊密にし、本会の発展を図る。

第8条 会長、副会長の任期は2ヶ年とし再任を妨げない。

2 幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。

3 役員に欠員を生じ、本会の運営に支障あるときは補充をすることができる。但し任期は前任者の残任期間とする。

## 第5章 会 合

第9条 総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決を行う。

第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。

2 クラス委員会は、クラス会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。

3 クラス会およびその他の会は随時開催できる。

各会を開催した場合は会長に結果を報告する。

第11条 第9条の総会・第10条の幹事会は、

出席人数を以って成立し、その議決は出席人数の過半数の賛成を必要とする。

第12条 本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。

## 第6章 会費および会計

第13条 本会に入会するものは会費を納入するものとする。

2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以ってこれを認める。

第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。

第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。

## 第7章 会則の改正その他

第17条 本会則の改正は総会の議決を要する。

第18条 本会の運営上必要と認めるときは細則を設けることができる。

## 附 則

1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。

2 昭和46年5月15日  
第6条第4項一部改正  
昭和47年6月27日  
第6条第1項一部改正  
昭和50年6月7日

第13条第1項一部改正  
昭和56年6月27日  
全面改正

昭和57年6月26日  
第13条第1項一部改正  
昭和60年6月22日

一部改正  
平成4年6月20日  
一部改正

平成9年6月21日  
一部改正  
平成14年6月15日

第6条第1項三号一部改正  
平成16年5月15日  
全面改正

平成17年5月14日  
第8条第3項削除、第11条の変更、  
他一部変更

# 東京電機大学中学・高等学校同窓会会則細則

第1条 名誉会長には東京電機大学中学・高等学校長を推戴する。

2 顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。

3 参与は会長（旧会則による幹事長を含む）の経歴のある人で、幹事会の承認を得た者、または幹事（旧会則による常任幹事を含む）の経歴のある人で、幹事会の承認を得た者とする。

4 会長および副会長は幹事会の互選で定める。

5 会計および庶務は幹事会の互選である。

6 クラス委員はクラス会より選出する。

7 会則第12条による委員会の委員は幹

事会の推薦により定める。

第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。

第3条 本細則の改正は幹事会の議決を要する。

## 附 則

1 本細則は昭和35年4月17日より施行する。

2 昭和56年6月27日全面改正

3 昭和60年6月22日全面改正

4 平成4年6月20日全面改正

5 平成16年5月15日全面改正

6 平成17年5月14日

第1条第3項一部改定



## 編集後記

平成19年に行われた学園創立100周年記念行事から始まった、学園、同窓会、校友会の各種イベントは、本年度で無事終了することができました。この間、幹事の皆様には、それぞれ役割を分担し普段の年にはない忙しい思いをしたことと思います。ご苦労様でした。

今回の「朋友」は、同窓会創立50周年記念特集号ということで、記念事業の報告をはじめ掲載内容が多く、通常の冊子32ページから40ページとさせていただきました。同窓会活動半世紀の記念となれば幸いです。

なお、お忙しい中、加藤学園理事長から巻頭言を、特集記事に古田学長から「IDCロボットコンテスト」の貴重な記事を寄せていただき、特集号に相応しい内容になりました。ありがとうございました。また、記事収集にご協力いただきました、学園の先生方と校友会の皆様にも改めて厚く御礼申し上げます。

＜編集委員＞ 串橋幸保、野口 隆、白田英夫  
矢部好雄、岩崎 博

平成22年3月10日発行（非売品）

発行責任者 石 崎 泰 司

〔編集兼発行所〕

東京電機大学中学・高等学校同窓会

住所：東京都千代田区神田錦町1-4

東京電機大学校友会

電話：03-5280-3512

東京電機大学中学・高等学校同窓会

住所：東京都小金井市梶野町4-8-1

電話：0422-37-6441（代）

本学園創設者の藤本先生（左）、  
廣田先生（右）の胸像

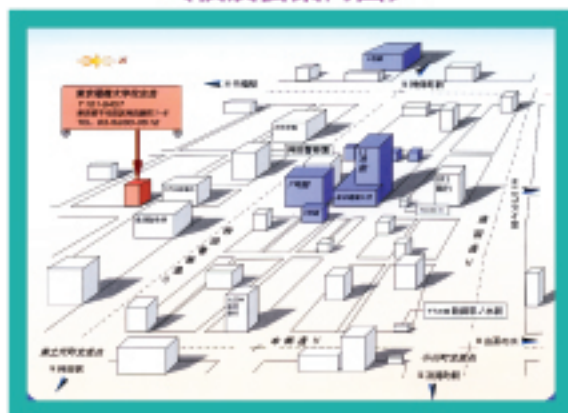


河部貞夫先生のレリーフ「若者の像」。  
学園創立60周年を記念して同窓会、学園、生徒会  
により制作されたもの。現在、小金井校舎のグラ  
ンドの一部に設置されている。

### <学校案内図>



### <校友会案内図>



東京電機大学中学・高等学校同窓会

●ホームページ

東京電機大学校友会

●同窓会ホームページ

●校友会ホームページ

〒184-8555 東京都小金井市梶野町4-8-1 tel 0422 (37) 6441(代)

<http://www.dendai.ed.jp/>

〒101-8457 東京都千代田区神田錦町1-4 tel 03 (5280) 3512

<http://www.dendai.ed.jp/chuko-doso/>

<http://www.tduaa.or.jp/koyu/>